

部報

平成21年度 No.55

北海道大学馬術部



◆ 目次 ◆

巻頭書	井上 京	2
前主将より	野村 基惟	3
活動報告		5
調教報告		
北彗号	出戸 裕人	21
北鳳号	海道 磨里	24
北翔号	野村 基惟	27
北椎号	田中 里枝	31
北煌号	齋藤 孝洋	35
北創号	内山 知	40
北柊号	村木 泰子	43
北凜号	野村 基惟	51
北兔号	宮本 亮	56
入厩報告		
北菓号	山本 栄輔	58
北焰号	出戸 裕人	58
エルグレイ号追悼		
エルグレイ号死亡報告	海道 磨里	59
エルグレイとの思い出	高嶋 涉	62
エルグレイ号との思い出	前田 晋也	63
無題	住江 康晴	68
リーズンとの思い出	山川 倫明	70
リーズンと過ごした最後の一年	武藤 将充	71
OB 寄稿		
馬術部の皆さんへ	本城 敬文	73
馬と詩歌について	横田 肇	76
北大水産学部馬術部活動報告	伊藤 海	90
卒部にあたって		92
部員紹介		99
OB名簿		110
現役部員名簿		121
編集後記		124

ウマは賢い動物ですか、とウマを知らない人からよく尋ねられる。イヌやネコのように感情表現が豊かなわけではなく、ヒトに訴えるような仕草を見せることもさほど多くはない。放牧されたウマが遊ぶ姿をみれば、ウマにも感情があり遊ぶ知性を持つことが判るが、どうもウマはイヌ・ネコほどには利口でないと思われている。

知能的な意味ではそうかもしれない。しかしウマのもつ能力のうち、運動能力はヒトが関わりをもつ動物の中では抜群である。そしてウマの運動能力は、ヒトとの共同作業すなわち調教によって磨きをかけることができる。横木 1 本またぐことができない新馬も、数ヶ月の調教を経て障害を飛越できるようになる。調教を通じて運動能力を高めることができるということは、ウマの賢さの一つに違いない。知能よりは運動本能に近い部分でウマの能力は極めて鋭敏で優れた力を持っている。調教は、ヒトがウマの能力をうまく見出し、発達させていく過程といえる。

ここで問題になるのは調教の中身であろう。人は「形」から入ろうとする。しかしウマにとって「形」はなく、そんなことはウマの知ったことではない。馬の運動の結果が「形」に現れるに過ぎない。

ノーザンファームの安藤康晴さん（帯畜大馬術部 OB）は、ディープインパクトの調教にたずさわった方だが、ウマ科学会の講演会で次のように発言されている（とある HP より再掲）。

「ウマの足を速くすることはできません。」

「私たちにできること、それは肉体的・精神的にウマを壊さないことだけです。」

「そのウマの生まれ持った才能を、レースで 100% 発揮できるよう導けるか否か？ ほとんどの場合、その才能を引き出せずに、ウマの邪魔ばかりしています。」

安藤さんはこの講演の中で次のようにも述べておられる。

『『ひっかかる』『巻き込む』『立ち上がる』という挙動をウマが見せるとするならば、それは馬体に無理がかかっているせいであって、ウマはその苦痛から逃れようと反抗しているのだと考えなければならない。』

「競走馬育成調教における到達目標は、『ウマの重心と騎乗者の重心の一致』、すなわち調和したバランスの良い動作こそが究極であると考えている。」

「というのも、このような『ウマの重心と騎乗者の重心の一致』こそが、ウマが生まれつき備えている自然体の動きを最大限引き出すことに他ならないからである。」

むしろ、競走馬と乗馬、障害飛越馬の調教が目標とするところは同じではない。しかしこと障害馬術に関して言えば（いや、馬場馬術もおそらく同じほどに）、かなり高度な運動能力をウマに要求している。したがって競走馬の調教同様に、ウマの運動を阻害するような騎乗者の邪魔はできるだけ排除しなければならぬ。ウマの運動とは単にウマの物理的な筋肉運動の結果ではない。ヒトのウマへの働きかけの結果であり、そこにはウマの本能を含む心理面への働きかけがある。運動を阻害することはウマの精神をかき乱すことでもある。

ただ人間くさい見方でウマを擬人的に捉えることは避けなければならない。おそらくウマにはウマの精神世界があり、それはヒトの精神構造とはまた異なったものだろう。ヒトは、ウマの動きを通じてその精神世界を覗き見し、読み取り、推し量ることしかできない。そのためにもウマという動物を一層深く理解する必要がある。

平成 21 年 9 月 13 日の未明に、エルグレイ号を疝痛により失った。すばらしい能力を持った一頭を亡くしたことはあまりにも残念であるが、彼の記憶は関わった部員たちの心に深く刻まれ、いつまでも生き続けることを信じたい。

野村 基惟

昨シーズンは、部員27名・馬匹10頭という体制で運営を進め、北日本学生には2回走行で2頭・総合競技で2頭が出場しました。やはり両競技とも団体出場ができなかったのはチームの一個人として非常に残念でしたし、また主将として力不足を痛感しました。シーズンを通して計画性を持った調教が必要だったのはもちろんですが、部員に対する北日本学生という大会への意識づけが足りなかったように思います。皆が楽しめる部活・個々のモチベーションを重視する部活、それが主将としての大きな目標ではありましたが、その中でも部活として一貫性を持たせるためには、何かチームとしての軸や方向性が必要だと感じました。個人的にはそれを北日本学生あるいは全日本学生に求めたつもりですし、北日本学生は、全日本学生を目指せる人馬だけの試合ではなく部員全員が参加して北大として戦える大会にしたいと考えてきました。それをうまく形にできなかったように思います。成績としては、エルグレイ・北翔が2走で権利を獲得し、北彗は総合で優勝を勝ち取ってきてくれました。苦しみながらも馬を立て直し大一番で結果を残した出戸は非常に立派でしたし、またこれを見た下級生が刺激を受けてくれればと思います。来年以降の現役諸君が、北日本学生を目標にチームとしてまとまってくれることを願ってやみません。

全日本学生には2回走行に2頭・総合競技に1頭が出場しました。ただ、次の代への代替わり直後に、出場予定だったエルグレイ号が疝痛のため死亡しました。現役部員は精一杯の対応をしてくれたと思いますし、

様々な人の協力のおかげで火葬という形で供養することができ、最終的には北大の馬場にリーズンを帰すことができました。生き物を扱う部活、それを最後にもう一度教えられた気がしました。

後に、こうしてシーズンを終えて次の代へと引き継ぐことができたのは、OBの方々を始め多くの関係者の方々の協力があったのものでした。この場を借りて深く感謝いたしますとともに、また次の現役たちへの温かいご支援をよろしく願いいたします。

<主将>

山本 栄輔

現在、北大馬術部は馬11頭、部員34人（4年目5人、3年目3人、2年目11人、1年目15人）で全日学団体出場を目標に活動しています。

一昨年から、新入生の大多数が平成生まれとなり部活離れが危惧されていましたが、昨年、今年と10人以上の新入生が入部したため、心配には及びませんでした。

馬術部にとって人は宝であります。部員数が多ければ、それだけ各個人の作業やバイトの負担が減り、心にゆとりができます。それにより、今まで目が行き届かなかったことにも気を配ることができるようになり、人馬ともに快適で安全な環境で部活動を行い、さらには騎乗面にも集中して取り組むことができます。鞍数の確保等の人数が多いなりの問題はありますが、それよりもメリットの方が多く感じますので、今後とも部員数の確保には留意していきたいと思います。そして、部員全員で部活動を支え、一人一人の成長が北大馬術部を成長させるという意識で活動していこうと思います。

馬の状況としては、毎年叫ばれている競技馬の高齢化、新馬育成の停滞が深刻となっております。今まで北大を支えてきたエルグレイ号が亡くなり、ここ数年間北大産の競技馬として新たに育ってきた馬もいません。昨年、JRA 馬事公苑から北焔号（ファイアーマリオ）、ノーザンホースパークから北菓号（ログキャビン）が入厩したため、少しは状況が改善されましたが、根本的な解決には至っておりません。

ただ、このような深刻な状況でも、全日学団体出場できるだけの競技馬はいますし、将来を期待させる力のある新馬もいます。そのような馬たちに対して、どこまで本気で向き合うことができるか、馬に負けない前進氣勢を人が持つことができるかが今年度の戦績、今後の馬術部を左右すると思います。競技者はもちろん、これから競技者になるもの含めそれ以外の部員全員で、馬に対して、馬術部に対して真剣に取り組み、競技馬は全日

学に連れて行き、新馬は来年再来年の北日学、全日学につながるよう育てていこうと思います。

末筆ながら、たくさんのOB、OG、馬関係の方々には、部の運営面、騎乗面で感謝してもしきれないほどお世話になっております。この場を借りて御礼とさせていただきます。北海道はもちろん、北日学の福島、全日学の東京でも北大馬術部としての勇姿をお見せできるよう今年一年精一杯頑張っていこうと思うので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

<副将>

瀧澤 省吾

近年の北大馬術部は、時代の変化とともに部員の層に大きな変化が起こっているようです。大半が平成生まれ、ゆとり世代と呼ばれる世代で構成されるようになり、女子部員数は男子部員数を超え、また部員の質も変わってきたように感じます。しばしばこの世代は、根性がない、熱血に欠けるといわれますが、この世代には、無意味で理不尽なことに対して疑問にもてる視野の広さがあるように思います。

部員の層の変化は、どの大学にも起こっているように感じられ、この変化にどう対応するのかに、大学馬術部の命運がかかっていると思います。ただ徒に厳しくし、封建的な体育会系に固執するのではなく、また、ただその厳しさを緩和して好きなようにやらせるのではなく、部員のやりがいを大切にしながらも厳しさも持って秩序の保たれた部活を目指していきたいと思います。

<主務>

綾部 美晴

主務の主な仕事は厩舎設備の管理と部活運営における事務面です。

馬術部が現在の住所に移設されてから11年が経ち、厩舎にも少しずつ修繕が必要な箇所が増えてきました。特に水道は業者の方に見てもらっても数日で出が悪くなるものがあり、根本的な問題があると思われ学校と相談していますが見通しが立ちません。また裏戸の金具も数ヶ月から数年で壊れることが多く、別の様式を検討しています。人と馬が快適に生活できるように、少しでも良い環境を作る努力を部員とともに考えていきたいです。

す。

馬術部は学校や連盟の援助、他の乗馬クラブや OB、OG の皆様のご協力によって成り立っています。そのことを常に意識しながら部として節度ある活動をし、大会運営といった場では部員一人一人が責任ある行動をしなければなりません。主務としてはこのような、特に外部の団体との接触がある活動が円滑に行えるよう気を配っていきたいと思います。

<馬匹>

海道 磨里

今年度はエルグレイ号が疝痛で死亡するという大きな出来事がありました。夕当て曳き馬をする、飼いのヘイキューブをふやかす、少しでも寒いと感じた日は高齢馬に馬着を着せる、水缶をお湯にするなど疝痛の予防はしてきたつもりでしたが、それだけでは充分ではなく、まだまだ改善していかなければならないと痛感しました。

私達は獣医学の知識を完璧に持っているわけではありませんし、部にはきちんとした医療設備もありません、なにより私たちは馬を扱うことに関して素人です。その中で馬が健康な生活を送るためには「治療」よりも「予防」を徹底することだと考えます。

病気の予防で大切なことは日頃から馬をよく観察することだと考えています。馬体だけではなく、目つきや仕草まで観察して小さな変化も見落とさないようにしなければなりません。事故の予防で大切なことは事故が起きる状況を作らないことです。地面に物が落ちていたり、馬の通り道に物が置いてあったりしては事故は容易に起こってしまいます。一人ひとりが人と馬の安全に関して高い意識を持たなければなりません。これらを改善するには部員同士で問題点を話し合っていくことが必要だと思います。

最後になりましたが、OB の方々にはアドバイスをいただいたり、馬を診ていただいたりと大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。至らないところも多々ありますが、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

<後援会>

山本 栄輔

北大馬術部は、全国各地に散らばっている OB 及び特別後援会員の方々のご支援ご声援により存続しています。後援会理事会、東京 OB 会始め、たくさんの方々からの力強いバックアップを、常日頃から感じています。

昨年は、札幌では75年史出版や75年史祝賀会、東京では全日のときの歓迎会など、様々な場面でお世話になりました。

また今年から部報や各種お知らせの郵送代を、後援会費から出し、75年史余剰金を障害の修復、購入にあてることができるよう、後援会理事会よりお計らい頂きました。

このようなたくさんのお力添え、誠にありがとうございます。そして、今後とも末永く北大馬術部をよろしくお願い致します。

最後に、メールアドレスをお持ちの方で馬術部よりメールが届いていない方は、郵送代節約のために hokudaibajutubu@hotmail.co.jp までメールをお送り下さい。昨年、新たに150人の方のメールアドレスを登録したところ、年間八万円節約することができました。お手数ではありますが、よろしくお願い致します。

<飼糧>

岡崎 遼太郎

今年はヘイキューブ1kg、燕麦1kg、ふすま0.3kg、パワーサプリ0.1kg、塩大さじ一杯強を朝、昼、夕の三回与え、乾草を1.5kg ずつ朝、昼、夕、夜の四回与えます。またヘイキューブは昨年同様ふやかしています。飼料は明治飼糧さんから購入し、一番乾草は長岡さんからバイト代としていただいています。また二番乾草を山本ファームさんから購入しています。昨年はライディングファーム・フセさんから二番乾草を100体いただきました。乾草は一番乾草と二番乾草を使い分けて、蕁麻疹を予防しています。

<会計>

綾部 美晴

今年は総支出に比べて総収入が多く、黒字となりました。しかしその主な理由は競馬場バイトが1開催増えたこと、臨時の高収入のバイトがあったこと、北日学が北海道開催であったことなどです。つまりこの黒字は今年だけに当てはまることであり、来年以降も同じように余裕のある経済状況になる見込みはありません。ですから今後も節約を徹底し、積極的にバイトを増やすなどしていくつもりです。また、OBOGの皆様にはご理解と温かいご支援のほどよろしく申し上げます。

2009年1月～12月会計報告

収入

部費	1,265,000
寄付	30,000
各連盟補助費	931,000
北大体育会強化費	598,527
道大会役務費	1,006,211
フレンドリー収益	663,000
半澤杯収益	206,600
競馬場バイト	2,531,990
モモセバイト	613,800
その他のバイト	761,000
その他	68,000
昨年度繰越金	26,693
合計	8,701,821

寄付: 山口さん

支出

飼料	1,711,506
装蹄	1,420,850
薬品	579,067
衛生	25,733
作業	63,130
車両	282,527
交通	1,298,934
馬備	27,238
大会関係	775,424
主務	162,512
ビデオ	70,350
北日幹事	235,237
後援会	139,183
電話料金	35,292
計	7,103,236
繰越金	1,598,585
合計	8,701,821

中古車と整備

民間車検工場

株式会社 **北大モータース**

札幌市北区北18条西5丁目1-36 電話 726-1526

◆ 2009年度戦績 ◆

●第47回国立七大学総合体育大会馬術競技会(於:東京大学)

優勝 東北大学
準優勝 北海道大学
第3位 東京大学

●第15回岩手大学招待学生馬術大会

☆予選第1ブロック 減点
出戸 裕人 ゴルトザムラー 0
清田 雄平 ファインジャンパー 4

北海道大学 総減点4 ※予選第一位により決勝進出
北里大学 総減点15
東京大学 総減点108

☆決勝

優勝	酪農学園大学		減点	
	廣田 翔太郎	ウラン	0	
	野坂 拓史	オニタイジ	2	総減点2
準優勝	岩手大学			
	前野 かおり	ウラン	0	
	佐々木 将太	オニタイジ	132	総減点132
第3位	北海道大学			
	清田 雄平	ウラン	0	
	出戸 裕人	オニタイジ	132	総減点132

●第37回半澤杯記念馬術大会

☆総合馬術競技(太秦杯)				馬場得点率	調教減点	障害減点	総減点
1位	伊比 太祐	エベレストクライマ	酪農学園大	50.675%	74	8	82
障害E	出戸 裕人	北彗	北大(3)	49.940%	75.1	3反E	-
障害E	清田 雄平	北鳳	北大(3)	50.337%	74.5	3反E	-

☆第2課目(市川杯)

1位	細谷 徹	キティホーク	メインフィールズ	得点率
2位	権田 いずみ	ダイエデム	酪農学園大	52.353%
3位	坂本 直樹	ウメニシキ	酪農学園大	50.784%
				48.824%

☆第3課目(齊藤杯)

1位	歌川 浩記	ヒノデツートン	札幌競馬場	得点率
2位	野村 基惟	ネイチャーヒーラー	北大(4)	50.533%
				50.400%

☆少年第3課目(札幌競馬場場長杯)

1位	米谷 みさと	ジーティーボス	札幌競馬場	得点率
2位	平野 優	ヒノデツートン	札幌競馬場	56.667%
3位	若生 五月	ヒノデツートン	札幌競馬場	55.942%
				54.493%

☆クロスバー飛越競技

				減点
1位	吾妻 志保	北椎	北大水産学部	0
2位	鎌谷 菜つみ	トーセンスノーマン	北大水産学部	0
3位	佐藤 真愛	北椎	北大水産学部	0
OP	宮本 亮	サクラフォルツァ	北大(H21卒)	0

☆110cmクラス(半澤杯)

				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	串間 孝敏	ブライトフライ	ライディングファーム・フセ	0	0	35.22
2位	武藤 将充	エルグレイ	北大(4)	0	0	41.54
3位	米谷 宏介	エイトブレーヴ	札幌競馬場	0	4	37.81

☆100cmクラス(河田杯)				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	中垣 彩也加	ブライトショー	ライディングファーム・フセ	0	0	42.69
2位	米谷 宏介	シルバーデューク	札幌競馬場	0	0	46.37
3位	若生 五月	ジーティーボス	札幌競馬場	0	0	67.50
8位	野村 基惟	ネイチャーヒーラー	北大(4)	4		
OP	出戸 裕人	北慧	北大(3)	4		

☆90cmクラス(小池杯)				減点
1位	城 憲司	セントラルシンチー	フロンティア乗馬クラブ	0
2位	畑 仁美	ブライトショー	ライディングファーム・フセ	0
3位	米谷 宏介	シルバーデューク	札幌競馬場	0
5位	内山 知	北創	北大(4)	0
6位	清田 雄平	北鳳	北大(3)	0
9位	海道 磨里	北鳳	北大(3)	0
10位	綾部 美晴	北煌	北大(3)	0
11位	斉藤 孝洋	北煌	北大(4)	0
18位	田中 里枝	北椎	北大(4)	4

☆70cmクラス(井上杯)				減点
1位	伊藤 洋一	オーデンセ	札幌競馬場	0
2位	弊旗 華子	ルヴェリエ	ライディングファーム・フセ	0
3位	城 憲司	リリアン	フロンティア乗馬クラブ	0
4位	坂田 直子	北椎	北大(2)	0
9位	遠水 秋	北鳳	北大(2)	0
10位	瀧澤 省吾	北煌	北大(2)	0
OP	宮本 亮	サクラフォルツァ	北大(H21卒)	0

●第23回北海道新緑馬術大会
(於:ノーザンホースパーク 5月14日~16日)

☆第3課目 part2				得点率
1位	星川 知子	ドリーム	モモセライディングファーム	56.377%
2位	中村 亜希	モガリブエ	ノーザンホースパーク	55.942%
3位	平山 真理	シンタ	モモセライディングファーム	54.783%
5位	野村 基惟	ネイチャーヒーラー	北大(4)	48.551%

☆標準小障害A				減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	百瀬 利宏	ロードルシミアント	モモセライディングファーム	0	71.00	0	34.70
2位	大崎 健司	ライキリスパーク	ライディングヒルズ静内	0	70.02	1	57.02
3位	田中 さゆり	チェリーアドミラル	マオイホースパーク	0	71.01	4	56.20
14位	野村 基惟	ネイチャーヒーラー	北大(4)	8	75.75		

☆標準小障害C part1				減点	タイム
1位	江頭 裕平	ジャズミンカラー	ノーザンファーム	0	57.50
2位	川合 達啓	ワンポイント	ノーザンホースパーク	0	64.92
3位	日野 光央	ゼンノストライカー	モモセライディングファーム	0	65.92
5位	海道 磨里	北煌	北大(3)	0	67.59
10位	斉藤 孝洋	北煌	北大(4)	1	72.73
16位	山本 栄輔	北煌	北大(3)	2	76.40

☆標準小障害B part1				減点	タイム
1位	上島 実佳子	コルト	ライディングチームKS	0	62.39
2位	畠山 朋宏	ゴメンアソバセ	フロンティア乗馬クラブ	0	64.26
3位	白井 岳	ワイアットアープ	白井牧場不二ファーム	0	69.18
16位	出戸 裕人	北慧	北大(3)	9	89.23

☆中障害D S&H				タイム
1位	加藤 天明	アトム	北星乗馬クラブ	64.50
2位	河田 諒	柏桜	帯広畜産大	65.78
3位	畑 仁美	ブライトフライ	ライディングファーム・フセ	72.81
2反E	出戸 裕人	北彗	北大(3)	

☆標準小障害B part2				減点	タイム
1位	工藤 幸矩	ルーラパン	ノーザンファーム	0	63.18
2位	田中 里枝	北椎	北大(4)	0	67.73
3位	森下 由香	バニラシェイク	北星乗馬クラブ	0	70.14
6位	村木 泰子	北創	北大(4)	5	77.70
11位	内山 知	北創	北大(4)	7	82.82
落馬E	内山 知	北創	北大(4)		

☆標準小障害C part2				減点	タイム
1位	浜口 幸三	トウカイポイント	ノーザンファーム	0	55.90
2位	日野 光央	ゼンノストライカー	モモセライディングファーム	0	58.24
3位	檜森 高史	コルト	ライディングチームKS	0	59.03
12位	速水 秋	北椎	北大(2)	6	81.50

●北海道三大学定期定期対抗戦
(於: 北大 5月31日)

				減点	タイム	総減点	総タイム
1位	帯広畜産大学	山田 真澄	北椎	500	3反E	500	112.48
		山下 啓太	北煌	0	58.56		
		山崎 由里	北創	0	53.92		
2位	北海道大学	坂田 直子	北椎	500	3反E	500	115.00
		速水 秋	北煌	0	60.95		
		瀧澤 省吾	北創	0	54.05		
3位	酪農学園大学	福地 加奈	北椎	500	3反E	500	114.63
		廣田 翔太郎	北煌	0	61.08		
		上田 未来	北創	0	53.55		

●第44回北海道春季馬術大会
(於ノーザンホースパーク 6月12日~14日)

☆標準小障害A				減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	西村 智史	ザッツザハリー	JRA日高育成牧場	0	69.00	0	39.08
2位	日高 修平	ホワイトメロディ	ライディングヒルズ静内	0	71.04	1	47.82
3位	藤田 あけみ	スピリッツ!	十勝柏友会乗馬クラブ	0	70.95	4	42.93
	野村 基惟	ネイチャーヒーロー	北大(4)	12	72.64		
☆標準中障害D				減点	タイム		
1位	百瀬 利宏	ロードルシミアント	モモセライディングファーム	0	69.87		
2位	勝野 晶子	マチカネウコン	モモセライディングファーム	0	75.32		
3位	松井 亮	タイキマーシャル	S41年卒	2	75.76		
☆標準中障害C				減点	タイム		
1位	野村 基惟	北翔	北大(4)	0	80.79		
2位	串間 孝敏	ブライトフライ	ライディングファームフセ	4	75.79		
3位	西村 智志	カイエン	JRA日高育成牧場	4	76.85		
4位	武藤 将充	エルグレイ	北大(4)	4	79.86		
☆標準小障害C				減点	タイム		
1位	森下 由香	バニラシェイク	北星乗馬クラブ	0	57.57		
2位	谷津 江里	アバランシー	フロンティア乗馬クラブ	0	63.06		
3位	水沼 佐和子	ダンディファッシュ	北星乗馬クラブ	0	63.59		
12位	出戸 裕人	サクラフォルツァ	北大(3)	4	62.56		

☆標準小障害B				減点	タイム
1位	大庭 晃一	アイビー	十勝柏友会乗馬クラブ	0	58.21
2位	グロツソ・アンナ	セントラルシチー	フロンテア乗馬クラブ	0	61.36
3位	城 憲司	セントラルシチー	フロンテア乗馬クラブ	0	61.75
4位	内山 知	北創	北大(4)	0	62.29
18位	海道 磨里	北椎	北大(3)	10	94.79
落馬E	綾部 美晴	北椎	北大(3)		
2反E	綾部 美晴	北椎	北大(3)		

☆標準中障害D S&H				タイム	
1位	百瀬 利宏	ロードルシミアント	モモセライディングファーム	62.73	
2位	勝野 晶子	リザーブ	モモセライディングファーム	64.95	
3位	西原 和郎	ライジングハート	モモセライディングファーム	68.10	
7位	野村 基惟	ネイチャーヒーラー	北大(4)	85.51	

☆標準中障害C S&H				タイム	
1位	串間 孝敏	ブライトフライ	ライディングファームフセ	73.92	
2位	百瀬 利宏	ストレイルホーク	モモセライディングファーム	84.56	
3位	石川 哲平	カイエン	JRA日高育成牧場	87.40	
5位	武藤 将充	エルグレイ	北大(4)	88.53	

☆標準小障害B part2				減点	タイム
1位	平山 隆一郎	ディーエスジャック	にいかっぶホロシリ乗馬ク	0	71.76
2位	森下 由香	パニラシェイク	北星乗馬クラブ	0	72.44
3位	古川 清登	ディーエスジャック	にいかっぶホロシリ乗馬ク	0	73.93
5位	清田 雄平	北椎	北大(3)	2	84.56
6位	山本 栄輔	北煌	北大(3)	3	91.34
9位	斎藤 孝洋	北煌	北大(4)	5	83.18
落馬E	海道 麻里	北煌	北大(3)		

☆標準小障害C part2				減点	タイム
1位	水沼 佐和子	ダンディフラッシュ	北星乗馬クラブ	0	69.17
2位	鈴木 豊雄	タマモガルチ	オーフルホースコミュニン	0	70.85
3位	森下 由香	ミスターブルー	北星乗馬クラブ	0	71.81
5位	出戸 裕人	サクラフォルツァ	北大(3)	0	76.48
8位	瀧澤 省吾	北煌	北大(2)	6	87.59
10位	坂田 直子	北椎	北大(2)	9	98.75

●第50回札幌市民大会
(於:北星乗馬クラブ 7月4日)

☆L級障害飛越競技				減点	タイム
1位	加藤 天明	アトム	北星乗馬クラブ	0	33.40
2位	水沼 佐和子	ダンディフラッシュ	北星乗馬クラブ	0	36.85
3位	森下 由香	ミスターブルー	北星乗馬クラブ	0	42.44
2反E	斎藤 孝洋	北煌	北大(4)		
2反E	瀧澤 省吾	北煌	北大(2)		
2反E	斎藤 孝洋	北煌	北大(4)		
2反E	速水 秋	北煌	北大(2)		

●第34回北海道馬術大会
(於:ノーザンホースパーク 7月23日~25日)

☆標準小障害A				減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	飯田 洋一郎	ザッツザハリー	JRA日高育成牧場	0	80.70	0	40.09
2位	五十嵐 めぐみ	ホワイトメロディ	ライディングヒルズ静内	0	77.50	0	41.79
3位	斎藤 剛	チェルシー	JRA日高育成牧場	0	85.67	0	41.90
2反E	内山 知	北創	北海道大学(4)				
2反E	内山 知	北創	北海道大学(4)				

☆標準中障害D				減点	タイム		
1位	日野 光央	オーエン	モモセライディングファーム	0	91.17		
2位	西原 和郎	ライジングハート	モモセライディングファーム	4	80.93		
3位	野坂 拓史	テノリオ	酪農学園大学	4	81.43		
9位	野村 基惟	ネイチャーヒーラー	北海道大学(4)	15	105.53		
2反E	出戸 裕人	北彗	北海道大学(3)				
☆標準中障害C				減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	河田 諒	柏桜	帯広畜産大学	8	96.82	0	46.84
2位	野村 基惟	北翔	北海道大学(4)	8	102.92	4	43.73
3位	加藤 慎太	柏海	帯広畜産大学	8	92.64	8	66.39
5位	武藤 将充	エルグレイ	北海道大学(4)	12	102.45		
☆標準小障害B part1				減点	タイム		
1位	大庭 晃一	アイビー	十勝柏友会乗馬クラブ	0	71.39		
2位	本間 準子	ホワイトメロディ	ライディングヒルズ静内	0	74.20		
3位	大崎 健司	ホワイトメロディ	ライディングヒルズ静内	0	76.14		
5位	出戸 裕人	北創	北海道大学(3)	0	85.57		
8位	内山 知	北創	北海道大学(4)	0	90.18		
9位	清田 雄平	北椎	北海道大学(3)	0	92.27		
15位	山本 栄輔	ネイチャーヒーラー	北海道大学(3)	6	113.45		
16位	田中 里枝	北椎	北海道大学(4)	8	107.24		
2反E	速水 秋	北椎	北海道大学(2)				
☆標準小障害C part1				減点	タイム		
1位	村上 智哉	トウカイポイント	ノーザンファーム	0	71.92		
2位	森下 由香	パニラシェイク	北星乗馬クラブ	0	74.26		
3位	檜森 高史	スズショウグン	ライディングチームKS	0	74.71		
13位	村木 泰子	北柊	北海道大学(4)	0	98.06		
☆標準小障害A S&H				タイム			
1位	岡村 実	アラビアンリスクイ	タイキライディングクラブ	66.28			
2位	澤口 智邦	オリオン I	十勝柏友会乗馬クラブ	66.96			
3位	遠藤 祥郎	アイビー	十勝柏友会乗馬クラブ	67.53			
29位	出戸 裕人	北創	北海道大学(3)	90.25			
☆標準中障害D S&H				タイム			
1位	百瀬 利宏	ビッグシャトル	モモセライディングファーム	73.16			
2位	日野 光央	オーエン	モモセライディングファーム	74.03			
3位	熊瀬 亮太	ジャスティス	旭川乗馬倶楽部	75.15			
10位	出戸 裕人	北彗	北海道大学(3)	85.32			
18位	野村 基惟	ネイチャーヒーラー	北海道大学(4)	116.37			
☆標準小障害C part2				減点	タイム		
1位	太田 篤志	ホワイトメロディ	ライディングヒルズ静内	0	70.01		
2位	山口 浩	ベルティアム	ライディングファームフセ	0	70.03		
3位	野ヶ峰 圭人	コルト	ライディングチームKS	0	72.40		
5位	岩野 公美	北椎	北海道大学(3)	0	78.57		
6位	村木 泰子	北柊	北海道大学(4)	0	81.12		
10位	綾部 美晴	北椎	北海道大学(3)	0	87.72		
18位	海道 麻里	北煌	北海道大学(3)	10	119.68		
経路E	斎藤 孝洋	北煌	北海道大学(4)				
2反E	斎藤 孝洋	北煌	北海道大学(4)				
2反E	瀧澤 省吾	北煌	北海道大学(2)				
OP	斎藤 孝洋	北煌	北海道大学(4)	0	75.93		

●第55回北海道体育大会兼第64回国民体育大会馬術
(於:ノーザンホースパーク 8月7日~8月9日)

☆標準二段障害飛越競技

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	中垣 彩也加	ブライトショー	ライディングファームフセ	0	41.60
2位	西村 智也	カイエン	JRA日高育成牧場	4	45.78
3位	小島 正志朗	オリオン I	十勝柏友会乗馬クラブ	4	不明
2反E	出戸 裕人	北慧	北大(3)		
OP	出戸 裕人	北慧	北大(3)	1	52.38

☆標準小障害C

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	江頭 祐平	パワフルショット	ノーザンファーム	0	50.51
2位	中垣 彩也加	ベルティアム	ライディングファームフセ	0	53.87
3位	星川 知子	ドリーム	モモセライディングファーム	0	58.65
4位	田中 里枝	北椎	北大(4)	0	61.00
16位	坂田 直子	北椎	北大(2)	8	81.12

☆標準小障害B part1

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	堤 由香子	トカチアトラス	十勝柏友会乗馬クラブ	0	53.45
2位	森岡 孝太郎	トウカイポイント	ノーザンファーム	0	57.14
3位	富川 創平	トカチアトラス	十勝柏友会乗馬クラブ	0	57.67
8位	村木 泰子	北柊	北大(4)	4	63.60
9位	海道 磨里	北鳳	北大(3)	4	66.60
2反E	岩野 公美	北椎	北大(3)	6	76.17
OP	岩野 公美	北椎	北大(3)	4	80.60

☆標準中障害C S&H

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	日野 光央	オーエン	モモセライディングファーム		71.40
2位	小野 慎吾	シルバアーロー	JRA日高育成牧場		76.98
3位	出戸 裕人	北慧	北大(3)		81.46

☆成年男子総合馬術

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	大林 利弘	トーマスジェファソン	JRA日高育成牧場	2	82.93
2位	小野 慎吾	シルバアーロー	JRA日高育成牧場	4	73.48
3位	百瀬 利宏	ストレイラルホーク	モモセライディングファーム	14	70.40
OP	武藤 将亮	エルグレイ	北大(4)	9	79.73

☆標準小障害A part2

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	大庭 晃一	アイビー	十勝柏友会乗馬クラブ	0	56.78	0	39.08
2位	西原 和郎	ホワツタイム	モモセライディングファーム	0	65.20	0	41.76
3位	樽岡 定雄	ルフィー	チェスナットファーム	0	61.10	0	57.67
8位	村木 泰子	北柊	北大(4)	13	83.86		

☆標準小障害B part2

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	幣旗 華子	ブライトフライ	ライディングファームフセ	0	54.43
2位	菅野 亜利沙	ジャスミンカラー	ノーザンファーム	0	54.96
3位	高橋 弥馬斗	ブライトショー	ライディングファームフセ	0	57.87
2反E	山本 栄輔	北椎	北大(3)		
2反E	瀧澤 省吾	北椎	北大(2)		

●第46回北日本学生馬術大会

(於:ノーザンホースパーク 8月27日~31日)

☆学生賞典障害飛越競技(二回走行)

順位	騎手	馬名	所属	1走目	2走目	総減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	植月 祥太	柏嵐	帯広畜産大	4	4	8	4	48.56
2位	加藤 慎太	柏海	帯広畜産大	4	4	8	8	50.00
3位	野村 基惟	北翔	北大(4)	8	8	16		
4位	間宮 理恵	テノリオ	酪農学園大	15	4	19		
5位	河田 諒	柏桜	帯広畜産大	15	8	23		
6位	明田 千穂	雪鈴	北里大	10	21	31		
7位	佐々木 将太	マーチ	岩手大	21	16	37		
8位	安井 博一	ブイテック	岩手医科大	34	28	62		
2走目E	武藤 将亮	エルグレイ	北大(4)	0	落馬E	-		
2走目E	荒谷 和彦	柏爵	帯広畜産大	1	落馬E	-		

☆学生賞典総合馬術競技

順位	騎手	馬名	所属	調教審査	耐久審査	余力審査	総減点
1位	出戸 裕人	北慧	北大(4)	67.5	0	0	67.5
2位	植月 祥太	柏岬	帯広畜産大	71.9	32.8	12	116.7
3位	植月 祥太	柏酔	帯広畜産大	57.5	50.4	16	123.9
4位	伊比 大祐	エベレストクライマ	酪農学園大	70.6	33.6	24	128.2
5位	荒谷 和彦	柏爵	帯広畜産大	66.3	73.6	8	147.9
6位	小林 真言	ファインジャンパー	岩手大	77.7	88	16	181.7
7位	河田 諒	柏桜	帯広畜産大	73.1	124.8	4	201.9
耐久E	野村 基惟	ネイチャーヒーラー	北大(4)	75.2	人馬転E	-	-

☆小障害A				減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	今泉 勇三	雪鈴	北里大	0	59.73	0	37.38
2位	山本 栄輔	エルグレイ	北大(3)	0	60.43	0	41.71
3位	村木 泰子	北柊	北大(3)	0	56.25	0	58.82
2反E	田中 里枝	北椎	北大(4)				
2反E	内山 知	北創	北大(4)				
2反E	海道 磨里	北鳳	北大(3)				
2反E	速水 秋	北鳳	北大(2)				
OP	内山 知	北創	北大(4)	0	55.09		

☆小障害B				減点	タイム
1位	白井 竜太	雪鈴	北里大	0	51.42
2位	加藤 慎太	柏蒼	帯広畜産大	0	55.21
3位	小野寺 竜之介	ウメニシキ	酪農学園大	0	56.46
11位	清田 雄平	北椎	北大(3)	6	
2反E	斉藤 考洋	北煌	北大(4)		
2反E	瀧澤 省吾	北椎	北大(2)		
2反E	坂田 直子	北煌	北大(2)		
OP	斉藤 考洋	北煌	北大(4)	0	

●北海道秋季馬術大会

(於:ノーザンホースパーク 9月17日~19日)

☆第2課目

				得点率
1位	伊藤 海	トーセンスノーマン	北大水産学部	58.431%
2位	グロツソ・アンナ	セントラルシチー	フロンテア乗馬クラブ	58.038%
3位	安倍 瑞生	ハイバート	フロンテア乗馬クラブ	55.882%

☆標準小障害C part1

				減点	タイム
1位	大江原 瞬	トウカイポイント	ノーザンファーム	0	47.82
2位	吉田 信玄	トウカイポイント	ノーザンファーム	0	47.84
3位	森下 由香	バニラシェイク	北星乗馬クラブ	0	55.45
7位	速水 秋	北椎	北大(2)	0	60.34
11位	武藤 将充	北椎	北大(4)	0	64.73
12位	瀧澤 省吾	ログキャビン	北大(2)	0	65.09
20位	出戸 裕人	サクラフォルツァ	北大(3)	0	72.79
24位	山本 栄輔	ログキャビン	北大(3)	7	83.78

☆標準小障害B part2

				減点	タイム
1位	森下 由香	バニラシェイク	北星乗馬クラブ	0	48.00
2位	廣島 孝佑	駿麗	酪農学園大学	0	51.57
3位	畑 仁美	ブライトショー	ライディングファームフセ	0	52.46
2反E	伊藤 海	トーセンスノーマン	北大水産学部		

☆標準小障害C part2

				減点	タイム
1位	日野 光央	ゼンノエルブルース	モモセライディングファーム	0	53.51
2位	川島 純子	ワイアットアープ	白井牧場不二ファーム	0	53.67
3位	長嶺 夏子	バハップス	マオイホースパーク	0	54.29
5位	速水 秋	北椎	北大(2)	0	55.89
6位	野村 基惟	ログキャビン	北大(4)	0	57.09
7位	出戸 裕人	サクラフォルツァ	北大(3)	0	60.25
8位	山本 栄輔	ログキャビン	北大(3)	0	61.98
10位	坂田 直子	北椎	北大(2)	4	67.14
2反E	大森 杏奈	北椎	北大(1)		

●OB戦

☆110cmクラス

				減点	タイム
1位	出戸 裕人	北替	北大(3)	0	97.94

☆110cmクラス

				減点	タイム
1位	出戸 裕人	北創	北大(3)	0	92.93
2位	瀧澤 省吾	ネイチャーヒーラー	北大(2)	4	86.15
3位	清田 雄平	ネイチャーヒーラー	北大(3)	4	93.75
OP	瀧澤 省吾	北創	北大(2)	0	78.56
OP	宮本 亮	サクラフォルツァ	H21年卒	0	92.00

☆90cmクラス

				減点	タイム
1位	国井 千恵子	北椎	H15年卒	0	88.75
2位	速水 秋	北椎	北大(2)	0	92.50
3位	荒瀬 匡宗	ログキャビン	H6年卒	0	94.53
4位	清田 雄平	サクラフォルツァ	北大(3)	0	95.10
5位	山本 栄輔	ログキャビン	北大(3)	2	101.62
6位	海道 磨里	ログキャビン	北大(3)	4	111.60
OP	前田 晋也	北創	H18年卒	0	93.21

クロス

				減点	タイム
1位	大森 杏奈	ログキャビン	北大(1)	0	84.69
2位	伊藤 海	北煌	H21年卒	0	85.34
3位	柳田 睦仁	北椎	北大(1)	0	92
4位	坂田 直子	ログキャビン	北大(2)	0	93.34
5位	宮田 昇太	北椎	北大(1)	0	94.34
6位	高島 涉	ログキャビン	H16年卒	1	97.93
7位	山川 倫明	ネイチャーヒーラー	H21年卒	2	102.81
8位	山本 栄輔	サクラフォルツァ	北大(3)	2	102.84
9位	山川 晃平	北煌	北大(1)	4	88.66
10位	綾部 美晴	北煌	北大(3)	7	123.62
OP	波田地 利子	北椎	北大(1)	10	133.9

●モモセダービー

(於:モモセライディングファーム 10月10日)

☆ジムカーナー競技(北大の部)

				タイム
1位	西村 英里	スペースリーダー	北大(1)	50.14
2位	加藤 亜也奈	ショウナンダンディ	北大(1)	75.21
3位	宮田 昇太	ジョニーノデンゴン	北大(1)	78.89
4位	多田 健一郎	ミッドセンチュリー	北大(1)	105.03
5位	久野 紗絵香	ウインギガシヤトル	北大(1)	108.58

☆60cm障害飛越競技

				減点	タイム
1位	堤 明子	タイキマーシャル	モモセライディングファーム	0	72.01
2位	小原 和史	ハイアンベガサス	モモセライディングファーム	0	78.75
3位	手代木 正子	ミッドセンチュリー	モモセライディングファーム	0	79.63
5位	柳田 睦仁	タイキマーシャル	北大(1)	4	72.13

☆80cm障害飛越競技

				減点	タイム
1位	出戸 裕人	マチカネウコン	北大(3)	0	50.47
2位	春田 大輔	マチカネウコン	モモセライディングファーム	0	53.16
3位	高樽 弥馬斗	ブライトフライ	ライディングファームフセ	0	54.53
13位	大森 杏奈	タイキマーシャル	北大(1)	0	69.09
14位	江口 遼太	タイキマーシャル	北大(1)	0	71.08
23位	岡崎 遼太郎	キタノミドリ	北大(1)	4	80.26
2反E	山川 晃平	キタノミドリ	北大(1)		

●第32回札幌地区乗馬大会
(於北星乗馬クラブ 10月17日)

☆標準障害飛越競技L級C

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	清田 雄平	北創	北海道大学(3)	0	72.59
2位	城 早苗	ハイバート	フロンテア乗馬クラブ	0	73.33
3位	住田 優美	マキシマムブレイズ	酪農学園大学	0	75.34

☆標準障害飛越競技L級A

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	森下 由香	パニラシェイク	北星乗馬クラブ	0	70.81
2位	出戸 裕人	北創	北海道大学(3)	0	82.69
3位	瀧澤 省吾	ネイチャーヒーラー	北海道大学(2)	0	76.78

●全日本学生馬術大会

(於JRA馬事公苑)

☆学生章典障害飛越競技

順位	騎手	馬名	所属	一走目減点	二走目減点	合計減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	坂田 篤司	ギャレストロ	専修大学	0	0	0	0	47.14
2位	斉藤 功貴	明葉	明治大学	0	0	0	0	48.39
3位	松本 務	ルナ・モジュール	専修大学	0	0	0	4	55.90
18位	植月 祥太	柏嵐	帯広畜産大	8	4	12		
31位	加藤 慎太	柏海	帯広畜産大	12	12	24		
38位	野村 基惟	北翔	北大(4)	16	12	28		
43位	荒谷 和彦	柏爵	帯広畜産大	21	8	29		
44位	河田 諒	柏桜	帯広畜産大	14	16	30		
49位	佐藤 大介	チャレンジ8	酪農学園大学	24	16	40		
2反E	出戸 裕人	北彗	北大(3)					
2反E	間宮 理恵	テノリオ	酪農学園大学					

☆学生章典総合馬術競技

順位	騎手	馬名	所属	調教減点	耐久減点	余力減点	総減点
1位	斉藤 功貴	明葉	明治大学	53.1	2.4	0	55.5
2位	鳥谷部 健太	インシュタール	日本大学	56.6	0	0	56.6
3位	上原 佑紀	桜鶴	日本大学	57.4	0	4	61.4
12位	加藤 慎太	柏海	帯広畜産大	73.8	0	8	81.8
20位	植月 祥太	柏酔	帯広畜産大	74.0	14.0	20	108
28位	伊比 太佑	エベレストクライマ	酪農学園大学	69.5	61.2	20	150.7
29位	荒谷 和彦	柏爵	帯広畜産大	75.0	90.8	4	169.8
34位	河田 諒	柏桜	帯広畜産大	96.7	185.6	12	294.3
余力E	出戸 裕人	北彗	北大(3)	79.9	29.6	2反E	-
耐久E	鈴木 祐宇利	柏蒼	帯広畜産大	87.3	5反E	-	-

●第49回北日本馬場馬術定期新人戦

(11月22日 於東北大学)

☆予選Bブロック

騎手	馬名	得点率
久野 紗絵香	オリオンボーイ	50.59%
江口 遼太	オレングレート	0.00%
柳田 睦仁	ラ・カスターニャ	50.88%

久野・柳田は各馬賞

順位	所属	総得点
1位	群馬大学	472
2位	新潟大学	467
3位	北海道大学	345

※上位1校が決勝進出のため予選敗退

●第29回山下杯・河田杯記念馬術大会
(於酪農学園大学)

☆80cm障害飛越競技

				減点	タイム
1位	伊藤 海	マキシマムブレイズ	北大水産学部	4	54.45
2位	山本 栄輔	ダイエデム	北大(3)	7	71.12
3位	木村 俊博	駿麗	酪農学園大学	9	76.17
4位	長崎 諒	駿昇	北大水産学部	9	77.96
3反E	坂田 直子	マキシマムブレイズ	北大(2)		

☆60cm障害飛越競技

				減点	タイム
1位	佐藤 真愛	ダイエデム	北大水産学部	1	61.13
2位	宮田 昇太	駿宋	北大(1)	1	61.56
3反E	多田 健一郎	駿昇	北大(1)		

●全日本学生選手権大会
(12月5日 於JRA馬事公苑)

☆1回戦

				得点率
Aブロック	篠原 世憲	京都産業大学	エムジーサイクロン	54.848%
	出戸 裕人	北大(3)		53.939%
	安倍 純澄	岩手大学		51.969%
	柘植 和也	明治大学		58.333%

※上位2名が2回戦進出のため予選敗退

Let's Get a License

☆毎日入校OK

☆日曜・祝日も教習&検定実施

☆朝9時～夜10時まで教習

☆各方面無料シャトルバス運行

☆各方面無料シャトルバス運行

普通車・自動二輪・大型特殊

セット で取ればさらにお得♪♪

<普通自動車・大型特殊・普通二輪・大型二輪>

北海道中央自動車学校

札幌市東区北25条東1丁目1-17

TEL 711-3344

http://www.hokkaidochuo.co.jp/

北大から
とっても近い
自動車学校!!



北25条



—調教報告—

◆北彗(メジロゲネシス)



セン サラ 葦毛
平成5年5月30日生
北海道伊達市産
父 メジロティターン
母 メジロマリア
平成10年11月8日入厩

出戸 裕人

ゲネシスとの1年に関しては調教報告というより反省文という形の方が伝わりやすいと思うので、今年もそういう形で書きます。

どこから書けばいいのか・・・最初から書くと、僕がゲネとコンビを組んだのは2008年(2年目)の9月で、その年に北日幹事会で決定したポイントランキング制で北創が獲得した権利により11月の全日学総合に出場、耐久審査当日に疝痛により棄権。翌2009年は100cm失権から始まり115cm完走(1落下)で北日学総合1位、全日学2走、総合(余力)失権までです。

この間に本当に色々な方に見ていただいたので、重要ポイントとともに並べると

08、9月 中野さんクリニック

- ・一定のペースでの経路走行
- ・回転での内方脚の重要性

- | | | |
|-------|-------------|----------------------|
| 09、5月 | 村上さんクリニック | ・障害への前進気勢（吸い込まれるように） |
| 6月 | 大塚さん（畜大OB） | ・強く起きた駆歩 |
| 7月 | 小笠原さん（畜大OB） | ・経路でのメリハリ（楽な所・強くいく所） |
| 8月 | 布施さんクリニック | ・舌鼓の反応、障害への前進気勢 |

そして前任の木村兄、一色兄、宮本兄にもこれらの事を何度も言っていました。

ゲネシスに限らずどの馬にも当てはまりますが、これら全てを出来ていれば余程の事が無い限り満点に近い状態で帰ってこられるはずです。ただ、高さや経路によりこの要素の難易度が変わってくるのでそこをどううまく乗れるか、というより、いかに乗り越えられるようなFW・準備運動が出来ているかが特にゲネシスには大切だと思いました。まさに、これが出来た北日・出来なかった全日で、はっきりと結果に表れたわけです。客観的にみれば簡単なことですが、それが出来なかった僕は気付けばシーズンが終わり、失敗し続けやっとなかったという体たらく。本当にゲネシスには申し訳なかったです。

そんな中でも掴んだ手ごたえはあり

- ・自信を持って飛ぶ時の向かい方
- ・パネが溜まっている駆歩の質
- ・野外走行での馬の変貌ぶり

また、人の感覚と馬の行動との誤差が小さくなったという事も僕の中ではとても大きな収穫となりました。それも、ゲネシスが大きな怪我もなく健康的に1年間過ごせたということがあってのことです。幸い、もう1年間チャンスを与えてもらったので、来季こそは・・・。

ここで、具体的な練習については何も書いていなかったのですが、1つとても効果があったものを書く

I	I	II	II	II
3m	6.1	6.5	6.8	

このコンビネーションは馬が自信を持って飛んでいたもので、他の馬もシーズン中に何度かやると馬の飛びが良くなると思います。ただし負担が大きいため、回数はできるだけ少なくする方がいいと思います。

と、まとまらない文を書きましたが、結局のところ問題は馬でなく人にあることを痛感したシーズンでした。最後になりますが、いつも朝に練習を見てくださった宮本さん、突然の何度もの相談に乗ってくださった一色さん、木村さん。また、快く練習を見てくださった方々には本当に感謝しています。ゲネシスも高齢になり残された競技生活も少ないですが、だからこそ最高の形で応えられるよう精進したいと思います！

学生割引あり



カットイントライ

北23条西5丁目山水ビル2F TEL011-747-1058

- 受付時間 AM10:00~PM8:00
- 定休日 毎週火曜日・第3月曜日

◆北鳳(ヤスノインディアン)◆



セン サラ 鹿毛

平成8年4月29日生

北海道三石郡三石町産

父 ダイヤモンドショール

母 ヒカリハード

平成13年12月2日入厩

海道 磨里

諸事情により6月に前チーフの清田からヤスのチーフを引き継ぎました。その時点でヤスで北日総合に出場するという目標は無くなりました。私は、吉村さんにヤスの状態を維持してもらいながら自分の練習をして、代替わりまでに実力をつけるという目的のもとヤスに乗りました。吉村さんにヤスの状態を維持してもらうのですから、私の立場はチーフというより馬責に近かったと思います。今回は私がヤスをどう調教したかではなく北日までの2ヶ月間自分がどんな練習をしてきたかを書こうと思います。

半澤杯後から左肩が跛行していて、6月、7月になってもそれが治らなかつたのでしばらくは乗れませんでした。春自馬や公認大会も跛行のため出られませんでした。歩様が良くなったので常歩運動を開始しても、速歩運動をやり始めるとまた跛行するということが続きました。6月にOBの川崎さんにヤスを診ていただいて、ヤスの肩跛行は慢性的なもので、跛行しても休ませるといふより運動して、一週間の中で急に強い運動や弱い運動をするのではなくて、徐々に運動量を増やすように、とアドバイスをいただきました。それからは毎日練習の初めに低伸運動をして、日曜日は運動

量を落として月曜日の馬休につなげるかたちをとりました。あまりにも歩様が悪い日以外は、少々歩様が悪くても運動するようにもしました。放牧も多くして何かしら動いている状況を作りました。普段の練習では人が内を向かないで真っ直ぐ乗る、拳を立てる、内方姿勢をとるなど基本的な姿勢の練習を日々行いました。

8月に入り跛行することが少なくなり、障害練習を始めました。背筋を伸ばしてツーポイントをして、馬を前に出して跳ぶことを意識して練習しました。国体予選では左肩の具合もまずまずだったので、一日だけLBに出場しました。その時は走られて人の背中丸く、ずっと手綱にぶら下がって、手綱だけで誘導している状態でした。一落下で帰ってきたものの、普段練習していたことが全く生かされない試合となりました。

北日ではLAに出場しましたが、回転で人の体が前に行って猫背になりそれが経路を進むごとにひどくなっていき、一つの障害を跳ぶことに精一杯になり、次の障害のこと、経路全体のことを考えられなくなりました。そして障害に真っ直ぐ向けられなくて拒止しました。改めて向かい直しましたが、その向け方も悪く二反抗失権となりました。どんなことがあっても、人が絶対ここだけは通すという強い気持ちを持ってコース取りしていたら障害にも真っ直ぐ向かえて反抗しなかったかもしれないなどと思えばきりがありません。結局北日はヤスの実力に見合わないLA失権という形で終わりました。今回の失敗は馬のせいではなく明らかに人のせいでした。馬自体はLAを帰ってこられないようなことはないのです。来年はヤスに目標を達成してもらいたいし、私も少しでも力になればと思います。

最後になりましたが、2 か月という短い間でしたが、一頭の馬に乗るような実力のなかった私を指導してくださった吉村さん、ありがとうございました。吉村さんには騎乗面だけではなく地上での馬との接し方なども教えていただきました。馬をよく観察し、馬の反応を見て、馬がどのように感じているかを考えて馬と信頼関係を築いていくことの大切さを学びました。本当にありがとうございました。

赤ひげ

で

よくコンパをやります。次のコンパが楽しみだ。

札幌市北区北22条西5丁目2-5

TEL 011-707-5067

◆北翔(シンコウブラウン)◆



セン サラ 鹿毛

平成2年3月6日生

北海道浦河郡浦河町産

父 クライムカイザー

母 アーマゲイ

平成15年1月19日入厩

野村 基惟

昨シーズンに続いて今シーズンもシンコウブラウンに乗せていただくことになった。様々理由はあったが、主将として競技馬に乗って確実に権利を獲ること、人の練習量を抑えてなるべく馬の負担を減らすことなどが主な理由であった。今まで林兄や谷口兄に頼ってきた部分を今シーズンは自分で維持しながら、まずは最低限の目標である全日出場を念頭において乗ることとした。具体的には、昨シーズンの全日の走行でシンコウの良い動き・本来の動きを経験することができたため、そのときの駈歩に少しでも近づくことを目標にした。同時に馬体のケアも考えて運動量は最小限に抑えることを意識した。

冬は常歩のみに徹し、ひたすら坐骨と脚の反応を良くすることに努めた。シンコウに乗るにあたって常歩運動は非常に大切で、特に横運動では後肢を大きく動かすことを意識して乗ると良いと思う。これがしっかりとできれば、運動していくにつれてどんどん後肢を踏みこんでハミに向かって歩いてくれるようになる。詳しい運動メニューや注意については去年の部報に示したのでここでは省くが、この一連の常歩運動が良い速歩・駈歩には

必要不可欠であることは間違いないと思う。

春になっていざ速歩を始めてみると、気持ちはフレッシュで前向きになっていたが、身体がついてこないといった状態だった。計画では新緑大会から始動しようと思っていたが、焦らず春自馬からの始動となった。春自馬ではMCを使ったが、結果はともかく内容は理想とは程遠いものだった。馬のバランスが起きた良い駆足を作ろうと意識するあまり、単純に拳を使って馬を引き上げようとしてしまい、結局コンタクトを無視した乱暴な拳になってしまった。公認でもMCを使ったが、推進すれば馬は前に出ていくものの、それは大きく身体を使っている事とは違うものだった。推進さえ忘れなければ120cmなら馬は飛んでくれるが、正直手ごたえは良くなかった。ただこの試合ではジャンプオフに進むことができ、その時前をやや軽くして走らせるつもりで回った走行が、結果的には一番馬が動いている状態であった。今1つ良い感覚が掴み切れずに迎えた北日であったが、馬場の悪化と全体としての出場人馬のレベルから高さは120cmも無い程度の高さで行われた。北日本学生としては非常に情けない限りであったが、実際にはここでもまだ推進が馬に弾発力として溜まる感覚がつかめず、正直130cmでは帰ってこれたかは自信が無い。

糸口がつかめたのは寧ろ北日が終わってからだった。1か月ほど休養を挟んだ後、立場も一応はOBという形になり一からじっくりと乗っていく中で、貫名さんに運動を見ていただく機会があった。特に軽速歩の際に、細心の注意を払ってもっと拳を静定し、しっかりと両拳・両脚の中に収まりゆったりとした速歩を心がけるように言われた。地道な作業にも思えるがそれを根気強く繰り返していくうちに拳は軽くなり、馬が自然とバランスを起こして、ゆったりした速歩でもハミに抵抗なく動いてくるようになった。基本中の基本であり、言われてみれば当然のことも思われ

るが、シーズンを振り返ってみるとこの時期が一番の転換点となった。「馬を急がせるような運動はもう要らない。」という谷口兄のアドバイスもようやく意味が掴めた気がした。そんな運動をじっくりと続けていくうちに、ようやく馬のバランスに合ったコンタクトを取れるようになってきた。乗っている間はそのコンタクトを外さないように常に注意を払い、その結果駈歩になっても自然と馬が大きく動いてバランスを起こしてくるようになった。手綱を短く持ってもコンタクトは素軽く保てる状態、これはすなわち馬が後肢をしっかり使いバランスを起こしている状態であり、シンコウにとってはこれが良い駈歩の条件であるように感じた。全日まではこの感覚をひたすら高め、ようやく自分でもある程度納得いく駈歩ができるようになった。馬事公苑に行ってから馬の状態も良く、特に2走目では良い走行ができたと思う。ただ最後の最後に馬が疲れたとき、冷静に人がサポートしてあげられず落下が重なってしまったように思う。結局順位としては昨シーズンとほとんど変わらないものだった。無反抗で帰ってくるのができたことは良かったが、馬の状態、そして何よりシンコウという馬の実力をもってすれば入賞も十分可能だったと思う。2年目でありながら、シンコウに、そして北大に結果をもたらすことができなかつたのは情けない限りである。

この2年間様々な失敗を繰り返してきて、最後によりよく自分の力で馬の状態を僅かにではあっても上げることができたように思う。深い騎座と両拳・両脚の感覚をフルに使って、後肢の踏み込みや姿勢など馬の一步一步の動きを感じ取ることで、その上で坐骨と脚で十分に馬を推進し、それを柔らかい拳で受け止めて馬に運動の支点を作ってあげること。馬術においては基本的なことではあるが、このようなことを意識しつつ試行錯誤を繰り返せば、いつかは馬がバランスを起こしてくる感覚がつかめると思う。

また、もう一つ大事なことは、そんな良い状態の駆歩の感覚をいち早く体感することだと思う。次に乗る山本にもそんな感覚を北日前まで掴んでもらえたらと思う。

最後になりましたが、今年も最後の全日まで大事なときにはしっかりと練習を見てくださった谷口兄、北日・全日の応援に来て下さった林兄、いつも適切なアドバイスをいただいた貫名さん、本当にありがとうございました。また応援して下さった方々にこの場を借りて感謝いたします。

そしてシンコウへ。こんなにも下手くそな僕を背中に乗せてさぞかし不安な日々だったでしょう。それでも2度も東京の舞台に連れて行ってくれたのは、ひとえに君の実力と素直な心に尽きます。あの舞台に君と共に立てたことを、心から誇りに思います。そのまさに翔ぶような駆歩に乗って試合に挑めないか思うと残念です。もう少し頑張れば、豊かに青草が生い茂り、綺麗な川の流れるあの牧場が君を待っています。どうか後輩のためにあともう少しだけよろしくね。

2年間対話した日々は本当に楽しかった。心から、ありがとう。

(注) リーズンの供養の関係で、静内にある堀江さんの牧場(クレイドルファーム)へ挨拶に行ってきました。本当に素晴らしい牧場でした。シンコウを無事元気で送り届けられるように、精一杯のサポートをしていきたいと思います。

◆北椎(シーベスト)◆



セン サラ 黒鹿毛
平成9年6月5日生
北海道浦河郡浦河町産
父 タマモクロス
母 シークイン
平成15年8月25日入厩

田中 里枝

「調教報告」なんておこがましい、むしろ私の方が馬から多くのことを教えてもらいました。歴代チーフの中でも技術力の乏しい私がこの一年間で何をやってきたか、少しでも役立てるようなことを書き残せたら、と思います。

チーフになった当初、「馬が動いている状態」「馬の良い状態」というものを感覚として掴んでおらず、走られることはできても走らせることが出来ない状態でした。代替わり後、雪が積もるまでは障害練習に専念しましたが、馬を動かすことができていなかったためにFWにおいても馬の状態はどんどん悪くなりました。

凡人の場合、何もわからずに乗っていても全くいいことはなく、自己満足でしかない、無駄な運動時間でしかないと思います。チーフになってからというもの、下級生のうちに学んでおけばよかったと思うことは多々ありました。先に述べたように「馬の良い状態」や「さまざまな場面での馬への対応」、運動の組み立てといったことを下級生のうちに先輩達の練習から見て吸収していれば…とよく感じたものです。(具体的にどのように

して馬の状態を作っていくかということについては、偉大な先輩方の調教報告にも記載されているので、現役部員には是非、過去の部報を読んでもらいたいと思います。)

そんな抜け穴だらけの私は慶応大学馬術部 OB の貫名さんにシーベストに乗ってもらい、馬の動いている状態、良い状態というものを少しでも感覚としてつかみ、その後は自分が乗ってその状態に近づけるようにしました。春には多くの方々の協力もあって馬の状態は持ち直しました。馬が乗り手に集中しているか、脚に反応して前に出る、きちんとした停止、駆け歩等での歩度の詰め伸ばしができるかどうか等の確認を行いました。その後は障害に向かえばそこに吸い込まれていくような状態を心がけて乗りました。

しかし、乗り手の技術不足が原因で以前よりも馬が拍車に対して警戒する(耳を伏せる)、嫌がる(蹴っ跳ねる)癖がついてしまいました。これは私自結身のかかとをあげて拍車を使う癖が原因で、一時期は人も馬も改善されましたが、結局最後まで直すことができませんでした。同様の癖を持つ下級生が乗ると蹴っ跳ねることがあり、このような状態になってしまうと人が跨っただけで警戒して耳を伏せてしまうこともありました。

・シーベストの位置づけと障害

シーベストは「練習馬」という位置づけで、下級生が試合に出ても LC や LB でかえってくることを目標にしました。そのため、リバプールなどの LA に出てくるモノの馴致はせず、低い障害練習や経路周りをメインに行いました。LB に出てくるモノでは「アドマイヤプランク」以外はほとんど怯まず飛びましたが、シーズン始めでは以前馴致したモノにも怯むことがあります。「アドマイヤプランク」はもちろんのこと、「レインボー袖」や場合によっては出てくることもある「スパー」、新しく見慣れない障害

には特に注意が必要だと思えます。

また、馬が動いていない状態や障害へのアプローチが悪すぎると左に切る、障害前で人が前のめりになっていたり追ってしまうと拒止することがありました。こうした反抗は大体人の失敗によるものでしたが、「人のせいだから飛べなくていいのだ」と馬が思ってしまえば、練習馬としてどんどん障害を飛ばない馬になる恐れもあります。人が失敗しない、失敗させないことが最も重要です。

・シーベストの年間の状態変化

一年間、ひどいフレグモーネや仙痛を起こすこともなくほとんど健康に過ごしてくれました。毎日3、4人の下級生が馬配についていたにも関わらず、練習馬として北大馬術部を支えてくれて本当に感謝しています。貸与馬戦や馬講でもよく活躍してくれました。シーベストはスーパーホースです。

ただ、6、7月あたりにシーベストの蹄の状態が悪くなってしまいました。ノーザンホースパークの大会で、試合後に急遽、白井さんのクリニックが開催され、せっかくの機会ということもありクリニックに参加しました。雨で状態の悪い馬場でしたが長時間運動することになってしまい、その後、蹄の下から表面的に割れ目が入っていました。今でもそのときが原因だったのではないかと思います。あるいは日頃の長い運動時間が祟ったのかもしれませんが。

シーベストの蹄はもともと形が悪く、特に前肢の蹄先は潰れかけたような、扁平な形です。蹄が弱く爪が伸びすぎると、釘を打っているところに向かって下から割れ目が入ったりします。この割れ目に泥などが入ったままになってしまえば雑菌によって蹄内部が空洞化、軽い蟻洞になってしまうようです。異常に気付いてすぐに装蹄師の山川さんにみてもらいました

が、前述の状態になっていました。症状が軽かったため、運動を続けることが出来たのは不幸中の幸いでしたが、今後は例年以上に蹄に注意を払わないといけません。また、雨で馬場が悪いときなどは通常よりも蹄に負担がかかるので運動を軽くする必要があります。練習馬という位置づけで、そのへんの事情と折り合いをつけるのはなかなか大変だとは思いますが、できるだけ長く北大馬術部にいてほしいと願っています。

他にも、ブラッシングを嫌がる、フケかぶれや鞍傷になる等のことがありました。どれも人の責任です。シーベストは性格も大変素直でおとなしく、新入部員には扱いやすい馬です。しかし、臆病で素直な分、嫌なものには「嫌！」と反応します。雑なブラッシングに馬が嫌がる素振り（頭を振る、動く、蹴る等）をするとそれを叱る下級生もいましたが、（私が人のことを言えた立場ではありませんが）馬からのサインや反応を無視しては決して馬との信頼関係は築けません。もちろん時には叱ることも必要ですが、馬のことを理解しようとする姿勢、観察や感性は色んな事故を未然に防ぐことにも繋がっており、とても大事です。馬には馬にしかわからない恐怖、臆病さがあり、また、とてつもない力をもっています。近年大きな事故が起きていない分、今後も安全第一に努めてほしいと思います。

最後に、大変お世話になった貫名さんや練習だけでなくノーザンの試合のときにも来てくださった小島兄、シーベ前チーフ・ドンパの武藤、支えてもらった先輩同輩後輩やその他多くの関係者の方々に心より感謝の意を申し上げます。本当にありがとうございました。今は武藤がシーベと新チーフをみられています。私にできることは限られていますが、陰ながら応援しています！シーベストがこれからも長く北大で元気にやっていけることを心から願っています。

◆北焯(ウインジーニアス)◆



セン サラ 鹿

平成 12 年 4 月 19 日生

北海道千歳市産

父 バブルガムフェロー

母 サクラギャル

平成 16 年 10 月 24 日入厩

斉藤 孝洋

ウインジーニアスは、代替わりで谷口兄から引き継ぐことになったが、その少し前から騎乗する機会を多くいただいていた。その頃からの印象でよく感じたことは、「難しいところの多い馬」というものである。その点については、谷口兄も前年度の調教報告で書かれていたように「許容範囲が狭い」という表現が当てはまるかもしれない。性格的にも消極的なところがあり、障害を含め慣れないものや嫌な印象を持つものに対しては、頑なに拒むという面があるように当時は感じられた。またこの馬については、その頃の部の状況の中で、なによりも練習馬として多くの下級生を乗せることが第一に求められていた。結果として、この一年は下級生の練習と馬の状態との折り合いをつけようと躍起になり、その中で多くの失敗も犯してしまうものとなってしまった。調教報告としては非常に情けない限りだが、これを読む後輩たちに何らかの教訓を与えられたら幸いと思う。

代替わりから冬の間にかけては、馬の状態と人の技量とを考慮して、可能な限り前任の谷口兄の御指導のもとで騎乗するようにした。代替わりして間もなく、脚の故障で2週間弱乗れなかったこともあり、運動再開後もFWを中心に進め冬に入った。先に「難しい馬」と述べたものの、この頃

のジーニアスは非常に状態が良かった。これは代替わり前からの谷口兄の調教が実を結んだもので、引き継いだ後もしばらくは谷口兄に先乗りしていただき、この流れを続けてもらうことにした。僕自身はというと、これを機に冬の間長い時間をかけて今一度自身のバランスを鍛えなおすことにした。何を今更と思われるかもしれないが、これは僕自身の課題であると同時に、ジーニアスに乗る上で最も「ごまかしのきかない」部分だった。この馬の最大の問題点は、下級生など一定の技術に到達していない者が乗った時に、人馬共に「悪循環」に陥ってしまうことが多々見受けられることである。原因はジーニアスが人のバランスに敏感であるにも拘らず、ジーニアス自体のバランスが「歪んで」いることだ。その上では、人が正しいバランスを維持するのが難しくなってくる。ジーニアスは身体の使い方があまり上手くなく、常に左肩が張っているような形になっていた。正しい言い方ではないが、常に「右姿勢」気味の姿勢になっていた。おそらくもとからそうであったのではないと思う。ジーニアス自体も元来左手前が苦手だったのだろうとは思いますが、これまで下級生などが多く乗ってきた中で必然的に左手綱を引っ張られる場面が多くなり、それに対する反抗として左ハミを突っ張るようになったことで、結果としてこのような形になったのだろう。そのためハミへの反応も含め、「許容範囲が狭い」という印象を与えていたのだと思う。従って、何があっても崩れない人のバランスと拳のセイテイがまず前提として必要だった。とはいえ、上記にあるような谷口兄の尽力でこれらの馬の問題点は当時かなり修正されていた。具体的なFWの内容については、昨年度の調教報告で書かれていることと同じ方向性で行われたが、その時点よりも馬自体はしっかりコンタクトを取れるようになっていたし、左肩を上手くしまえない馬の「歪み」もほとんど解消され、馬の姿勢は左右対称に近くなっていた。結果、バラバラに感じ

られた体の使い方が改善され、課題だった後駆の踏み込みも良くなっていたように思う。

という訳で、春にシーズンを迎えた時の馬の状態はかなり良かった。春先から徐々に障害を始めていったが、もともとL級以下でしか使うつもりはなかったなのでその意味で馬には余裕があったように思う。むしろ下級生を数多く無難に乗せられるようにしたいという思いがあったので、低い障害を馬が余裕を持って飛ぶという練習を繰り返すことが重要だった。障害時は2ポイントで騎乗し、人は推進だけしっかり与えてなるべくジツとし、あとは真っ直ぐ向けて待つというシンプルな形で行った。こうした無理をしないやり方が当初は上手くいき、馬も障害に対し積極的になっていたように思う。練習では100cm程度、試合でもLBまでくらは難なく飛ぶことができていたし、下級生が乗っても経路回りができる状態だった。しかしこのことで人が油断してしまったことから、状況は一転してしまった。いつの間にか「シンプルに」という思いを履き違えてしまったのである。僕は次第にFWと障害練習とを切り離して考えるようになっていた。結果として、この馬の最も重要な部分であるFWでの馬の姿勢の確認と脚による左右の反応の確認が疎かになってしまい、その先にこそ障害飛越があるのだという意識が薄れてしまっていた。また下級生の障害練習についても軽率だった。数多く障害を飛ぶ中で、どうしても回転時に内方手綱が引張られる場面が多くなり、そのことがジーニアスに与えるダメージの大きさを甘く見ていたのである。当然、以前の如く左肩を張るようになり回転で「はみ出す」ようになっていったのだが、そこに至っても僕は改善するどころか、むしろ操作性が悪くなっていく中で自分までも内方手綱を引き込みバランスを崩すという愚行を犯してしまっていた。当時の僕には焦りもあった。状態が悪化していくことは分かっていたが、実際に月に1,2回大会があり下級生も試合に出したいとなると、多少無理をさせてでも飛ば

さなければ、と考えていたのである。当然ながらすべてが裏目に出てしまった。おそらく現役のチーフは誰でも、大なり小なり日々の練習やスケジュールに振り回されてしまうところがあると思うが、それだけにしっかり自分の中での優先順位をつけておいて欲しいと思う。

一度崩れてからは落ちるのは早かった。夏を前にして、馬は障害そのものに嫌なイメージを持つようになってしまったし、無理に飛ばそうとする中で人と馬との脚の関係も完全に壊れてしまった。気づいた時にはもう遅かった。一度壊れてしまったものを立て直す力には自分にはないと判断し、この頃から貫名さんにご協力頂くことにした。時には乗っていただき、それだけでなく随時的確なアドバイスを頂いた。そうして、本当に1から人と馬との脚の関係を作り直していくことから始めた。それからは停止・発進を始め、どんな細かい運動でも扶助を行うものなら全てに気をつかい、十分に時間を割くことにした。遠回りではあったが、少しずつでも確実にお互い確認しあいながら進めていく作業の方がこの馬には向いていたのだと思う。最後の頃には脚の関係はかなり修復されたと思うし、左右の脚反応を確かめながらFWをすることは、馬の「歪み」を修正することにもつながった。また下級生、特に1年生の練習も、しっかりとバランスを意識させた上での脚扶助の確認を重視した。内容は停止・発進、輪乗り、巻乗り、つめのぼし、とごくごく基本的なことで退屈させたかもしれない。しかし難しい馬だけに、何よりもまず人のバランス、そして安定した拳が重要であること、そしてそれが揃って初めて人は脚を使う資格があり、どんな脚も馬との関係に影響するのだということを強く意識してもらえたのではないかと思う。とはいえ、当初の目標であった下級性への障害練習という部分で後半ほとんど役立つことができなかったことは大変申し訳なかった。事実、障害についてはついに代替わりの時点に至っても、ジーニアスから嫌なイメージを取り去ることができなかった。どうしても障害

に躊躇する場面が多かった。この点はこれから時間をかけて徐々に改善してってもらいたい。

この1年は非常に悔いの残るものだった。自分の技術以上に、調教に際する考え方や馬との関わり方の方に反省すべきことが多かったことが何よりも悔しい。特に最後の2か月ほどの間は馬と「会話」すること、自分からの「発信」に対し馬がどう返してくれるかに全神経を集中することの大切さを痛感することになった。その中でジーニアスが頑なで頑固な馬だという認識が間違いだとも気付いた。ジーニアスは気が小さく、人の指示が理解できないと焦って混乱するところがある。要は人と馬とがそれだけの信頼感を築けていないことが原因だった。しっかり約束し会話できたことに対しては、ジーニアスはいつでも従順に応じてくれた。だからこそこの馬に乗る人には、何よりも馬を安心させられるような関係を築くことを念頭に置いて欲しいと思う。

最後になりましたが、この1年は多くの方々に支えられることになりました。OBの方々やお忙しい中御指導くださった貫名さん、何より離札ギリギリまで面倒を見ていただき、その後も事あるごとに相談に乗って下さった谷口兄には大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

美味しさ発見 新しくオシャレになった
時の館で、一瞬を
すごしてみませんか。



カレーライス
焼肉丼
ソフトクリーム
各種あります。



時館
北大
北18街西7

営業：11:00～24:00
N18 W7
TEL 726-0158

カレーから明日を見つめる
自由人舎 **時館**

◆北創(サクラスペリオール)◆



セン サラ 黒鹿毛

平成 13 年 4 月 9 日生

北海道静内郡静内町産

父 サクラローレル

母 サクラヒーロー

平成 18 年 6 月 24 日入厩

内山 知

僕は2年の冬から馬責としてスペリオールに関わり始め、2年間を共に過ごした。入厩時から一色兄、谷口兄と腕の立つ方々によって調教され、競技馬候補として期待されている馬である。初めてチーフとなった自分には調教などという大それたことはできなかったのですがこの馬に対する感想と、今後の希望を書いていきたいと思う。

この馬の特徴は、ダイナミックに動くところである。歩様も大きく、障害飛越のフォームも大きい。騎乗者は大変だが、この大きな動きを大切に、乗馬として伸ばしていつてもらいたい。スペリオールは頭が良いのか、性格が良いのか、騎乗者が求めたことをすぐに理解し反応してくれる頭脳も持っている。良い事をすぐに覚えてくれるのはありがたいのだが、悪い癖や、苦い経験なども覚えてしまうかもしれない。それは今後の騎乗者が十分に気をつけてほしいところである。またこの馬は肩を跛行しやすいところがある。一方の肩の跛行が治まってもそれをかばっていた逆の肩が跛行してしまうこともあった。水冷やマッサージなど体のケアは十分にやってもらいたい。それが馬を長く活躍させる方法であるとも思う。

FWに関して

運動を始めるにあたって体をほぐすために調馬策を使うことを勧めたい。入厩時に比べだいぶ調馬策運動で動くようになったので15分程度策を回してから騎乗したほうが乗りやすくなっているのではないだろうか。低伸運動も行ってはいたがこれをやりすぎると馬が下にのめっていつてしまう可能性があるのではやりすぎには注意が必要だろう。段発のある速歩、駈歩を作ることは難しいが、それが可能な馬なのでできるだけ良い歩様、良いリズムを目指して乗ってもらいたい。

障碍に関して

スペリオールは飛越が大きく、障碍を始めたばかりの下級生には少しついていくことが難しいかもしれない。しかし、馬は障碍に対して前向きに飛んでくれるので、鐙をしっかり踏めるようになれば下級生でも良い練習が可能であるだろう。特にコンビネーションを飛ぶのが上手なので下級生にはコンビネーションを利用した練習が適していると思う。

大会での走行に対して

今年の大会では特に入場前と開始のベルの音に対して馬が過剰に反応し、テンションが上がってしまうことが多々あった。これに対し、人が落ち着いて対応できなかったことを深く反省している。新馬が初めてのこと、久しぶりのことに対してテンションが上がってしまうことは予想できることなので、馴致を重ね、同じ事を2度3度と繰り返さないようにもっと注意すべきだったと思う。

実際の経路走行は、まだまだ回転がスムーズでなかったり、低い障碍を必要以上に大きく飛んでしまったりすることもあるが、障碍に対して前向

きなため、誰が乗っても回ってこれる馬になるのではないかと期待しています。今年北大で行われた三大戦で厩舎事情からスペリオールを貸与馬として使用したが、ぎこちないながらも三選手ともしっかりと回ってくる事が出来た。今後はより経路走行になれさせて、下級生でも経路走行の練習が出来るようになってもらいたい。

野外走行に関して

今年は帯広畜産大学の野外コースと、ノーザンホースパークの野外コースで馴致を行った。畜大のコースは去年経験していたためあまり躊躇することなく飛んでくれた。ノーザンでの馴致は畜大での馴致に比べテンションが上がり気味だったが、簡単なものはすぐに飛んでくれた。しかし穴に対しての警戒心が強く、障碍を崩し、他の馬の後ろに付けてやっと飛ぶことが出来た。これからも穴のある障碍はゆっくりと低いレベルから馴致する必要がある。

この馬のウィークポイントとなり得る点は、体の面でいえば肩の跛行である。疲労が蓄積するとすぐに歩様が悪くなってしまうので、状態の見極めと適切なケアが必要となる。

精神面では、気が強いように見えて実際には繊細だと言うことである。しかし納得すれば理解する賢さを持っている(?)ように感じるので、じっくりと経験を積み、落ち着いた走行が出来るようになってもらいたい。スペリオールにはウィークポイントに対し余りある良い才能が存在すると思うので、是非とも次世代を担う北大のエースになってもらいたい。大きな怪我もなく1日も長く現役生活が続けられるように現役のみなさんスペリオールをかわいがってあげてください。

◆北柊(サクラロイヤル)◆



セン サラ 栗毛

平成 13 年 4 月 9 日生

北海道静内郡静内町産

父 サクラローレル

母 サクラユスラウメ

平成 18 年 6 月 24 日入厩

村木 泰子

代替わりとともにロイヤルのチーフを担当することになりましたが、私には新馬に乗る上で必要な技術も経験もなく、前チーフの山中兄に練習を見て頂くことをお願いしました。その後も山中兄始め慶応大馬術部の OB である貫名さんや、関係する様々な方にご指導頂き、自分で調教をしたと言える事はほんの一部であるのが実際です。調教報告というよりもこの一年間の過程といった方が正しいかもしれませんが、少しでも後任の参考になればと考え、述べさせていただきます。

秋にはその時点での課題を明確にするために経路回りを行い、山下杯にも出場したが、障害を一つ越えるたびに馬が速くなってしまい、走られてばかりだった。まず馬上で騎手が独立したバランスをとれていないこと、特に拳を譲っていないために毎回口を引っ張ってしまうことが原因だった。自分のバランスを改善しようと調馬索や外周を使って駆歩のツーポイントの練習を行っていたが、あまり効果的とはいえなかった。冬には山中兄には学校がお忙しい中、無理を言って練習を見て頂いていたが、それができない日も多かった。私はそれまで自分一人で運動を組み立てる事をほとんど経験してこなかったため、一日の運動の中でどのようにしたら馬を

良い状態へ持っていけるのか、試行錯誤していたつもりだったが、今振り返ってみると冬取り組むべきはもっと別のところにあった。毎日の練習で人が上手くなっているとも言えず、ましてや馬を調教するなどとてもできない状態にあり、焦りと不安ばかり感じていた。

その頃シーベストの練習を見にいらっしゃっていた貫名さんに話を聞いて頂き、少しずつ練習を見て頂くようになった。馬について指摘されたことは、騎手との基本的な関係がまだできていない、つまり騎手からの指示を待つことを理解していないということだった。私については騎坐が左右、前後に偏ることがあるとのご指摘を受けた。ロイヤルに騎手との関係を理解させるために、常歩の発進、停止を繰り返した。特に停止は、発進の合図があるまでは何秒でもその場に停止していられるようになるまで繰り返し、声や愛撫も使って丁寧に行った。常歩でできたら、速歩でも取り入れていった。運動中は耳が常に騎手の方に向き、集中していられるようになった。私自身の練習としては、正しい騎坐に少しでも近づけるように、速歩の正反動を繰り返した。これは馬の調教とは別にかなりの時間を割いた。お陰で自分の重心がどのように馬にかかっているのかを感じられるようになり、それが騎坐の安定の改善に繋がった。

この頃、貫名さんとロイヤルの今までと、これからについてとにかく話し合った。新馬に乗るにはあまりに拙い技術しか持たない私には、どうしても知識と経験がある第三者に練習を細かに見てもらう必要があると感じ、本格的に貫名さんに指導をお願いすることにした。練習の考え方としては貫名さん自身にロイヤルに乗って調教してもらい、馬が理解し始めたら私も同じことをできるように、と一つずつ追っていく形だった。停止、発進の次は巻き乗り、八字乗りを行った。内方脚と外方脚をそれぞれ理解するよう、手前変換での脚、バランスの入れ換えに特に注意した。特に右手前では馬の腰が外へ逃げる癖があったが、外方脚の反応が改善し腰が収

まるようになった。さらに前肢旋回、反対姿勢の前肢旋回へと進んだ。この際、内方坐骨へのバランス、内方脚の推進と外方脚の抑えを意識した。毎日繰り返したのはこのような単純な運動だった。これらはロイヤルにとって調教過程の一步だったが、私にとっても一つ一つの運動を丁寧に行うことを繰り返す過程は、正しい騎坐と脚による扶助を送り、一つずつ反応を確かめていく訓練になった。輪乗りの開閉も確認のために丁寧に行うよう心がけた。

ここまで貫名さんはほとんど口向きについて手を加えず、脚への反応を課題にしていた。春先、脚についてしっかり土台ができたと感じられた頃、折り返し手綱を用いて頸の低伸を求めていった。私は普段、折り返しは使わず乗っていたが、時々折り返し手綱を持って乗ると、馬がハミをしっかりと銜えている感覚を実感できるようになった。その頃になると、以前はハミが強くあたると首を振ったり、ハミを口内でガチャガチャさせているために乗っていて手の感覚が空っぽになってしまうような印象があったのだが、それが減ってきたように思う。馬が脚の扶助を信頼して初めて、口向きを作ることができると学んだ。

本格的に土で乗れるようになった頃には、私自身の馬上でのバランスもマシになり、同時に馬の反応もどんどん良くなっていった。本当であれば新馬のチーフは自分の経験を馬に教えていくものだが、私とロイヤルの間では、ロイヤルの反応によって私が教えられる事があり、また、私が正しい扶助を与えられた時にロイヤルが正しい反応をする、その事を繰り返していくことがロイヤル自身の調教にもなる、という風に、互いに少しずつ前に進んでいけたように思う。

この時点でやはり貫名さんと何度も話し合い、国体予選か北日で LA の経路を余裕を持って回れるようにすることを目標に決めた。周りからは前年の成績から、積極的に試合数を重ね、うまくいけば下級生も試合に出す

ことを期待されていたが、試合に出ることよりも調教の進み具合との兼ね合いを優先させた。冬から数ヶ月間、少しずつ積み上げてきたものが形になるのが分かると同時に、それがまだ土台として固まっておらず危うい段階にいる、というのを実感として感じていたので、急いだり焦ったりして馬に嫌な経験をさせることによってそれが壊れてしまうことが怖く、みんなには悪かったがわがままを通させてもらった。

半澤杯では試合に出さなかったが、徐々に主に人の訓練として障害も飛び始めた。口を引っ張らないよう注意しながら、コンビネーションや緩やかな回転上に障害を置いて飛越練習を行った。相変わらず私が飛びに付いて行けず手綱を引っ張ってしまいがちだったので、直線に入ってからほぼとんど放棄手綱にして、飛越中に馬が頸を伸ばす時に手も一緒についていけるように意識した。障害練習を行う時には、絶対に口を引っ張らないことと、馬が走りそうな状況を作らず、常に馬が安心して障害に向かえるように心がけた。このほか、毎日の運動の中に斜め横歩、腰内、腰外、肩内も取り入れた。横運動を行う際には、バランスの移行としっかり推進することに注意した。新緑大会もエントリーはしなかったが、本馬場に上がると馬がかなり緊張して大変だということを山中兄に聞いていたので、ノーザンに連れて行きウッドチップや本馬場で馴致した。

その後の春自馬もエントリーは見送ったが、6月に入り経路回りを始めた。高さは80cm程の急な回転をなるべくいれない経路を組み、全体を一定の良いペースで回ることを目標に行ったが、私の中で馬を抑えようという意識ばかり働いてしまい、馬にとって飛びにくい、気持ちよく走りにくい状態を作ってしまった。また、短い回転などで馬に障害をはっきり認識させられないまま向かってしまい、驚いて馬が切ってしまうこともあった。これらは馬の問題というよりは、私の経験、技量不足によるものであり、私自身が障害練習をより多く積む必要性を感じ、その後も経路回り

はできる限り多く行った。また、ロイヤルは特にオクサーでは障害の 10 から 20cm 上を飛ぶこともあり、飛越中についていけず跳ね上げられてしまうことがよくあった。頭ではなく感覚で随伴をとれるようにするため、両脇を仕切った直線上に障害を置いて、馬が直線に入ったら勝手に障害を飛んでくれる状態をつくり、騎手は眼をつぶって飛越を体で感じ、口を邪魔しないようにする練習を行った。上手い随伴は最後まで身に付かなかったが、なんとか次の障害の準備にスムーズに入れる程度にはなったように思う。また、馬が踏み切るまで体を起して我慢できるようになったのは、一つの収穫だった。

一方でフラットワークの質もだんだんに上がってきたように感じていた。貫名さんに乗って頂いているお陰で頸の位置が前のように高い位置ではなく低い位置に定まるようになり、推進力が拳で溜まる感覚が私にも少しずつわかってきた。同時に脚の扶助が伝わりやすくなり、真直性も得られたように思う。ハミを嫌がる素振りがほとんど見られなくなったのもこの頃で、障害練習などで多少ハミが強く当たったとしても走る心配がほとんどなくなった。この課題がクリアできたことで、7月の公認大会にエントリーすることを決めた。

公認大会のフレンドリーは大失敗だった。ウッドチップで運動している時点では落ち着いていたのだが、準備馬場になると一変して大汗をかき、膠着状態になってしまった。ほとんどまともな運動もできず出番を迎えたが、本馬場に入ると再び膠着状態になりその後急発進して馬場の外周を走られ、抑えられないまま障害に向かった。飛び始めるといくらか収まったが、私は完全に姿勢が前のめりになっていて、馬が障害を切った際に落馬するという情けない結果だった。リエントリーして他の部員に乗り換わって無理やり飛ばしてもらおうことも考えたが、馬は全身から発汗しパニックに陥っている状態だったので逆効果だろうと判断した。この失敗から、次

の日の LC の朝は調馬索を多めに回し体力を消費させてから試合に出た。なるべく出番の直前に準備馬場に上がるようにし、常に歩かせておき馬を停めないようにした。入場してからも停めずにそのまま発進して経路に入ることで、北大の馬場にいる時と近い状態で臨むことができ、良いペースで経路を回ってくる事ができた。

馬が、そしてそれ以上に人間が落ち着いてさえいれば、障害を飛んでからバランスと手綱で馬を戻してから次の障害に向かう、ということができるようになり、北大で 90 から 100cm の経路を回ったが、私が何か失敗しても馬は余裕をもって飛んでいた。この頃の馬の成長は著しく、私がそれまで知らなかった新しい「感覚」をたくさん教えてもらったような気がする。脚と拳がつながった時の馬の歩様の変わり様や、体重の移動とほんの少しの外方脚で弾けるような駆歩が出る事が稀にではあったが実感できたときは本当に素晴らしかった。これ以降は経路回りの質を上げることを考え、一つ一つの回転や、飛んでからペースを戻してスムーズに障害に入ることを意識した。ロイヤルは良いペースで走っていれば馬が間歩を合わせて気持ちよく飛んでくれ、また詰め物や連続障害でもよく認識させてから向かえば反抗することなく素直に飛んだ。これは馬術部の学生が乗るには非常に長所であると思う。この時期には北大の馬場周囲の野外コースにある障害の馴致も始めた。穴の障害は他の物に比べると苦手だったが、よく見せれば飛んだ。本当なら 6 月の畜大馴致にも連れて行きたかったのだが、試合に出すのを控えたのと同じ理由で見合わせたので、次の機会には是非連れて行ってほしいと思う。その際には無理はせず、恐怖心を植え付けたくないよう慎重にやる事がロイヤルの性格を考えるととにかく大事であると思う。

国体予選は LB、3 課目、LA にエントリーした。障害については、私ができる限りの良い騎乗をして良い経路回りの経験を積んでいくことが、ロイ

ヤルにとってのレベルアップになると考えていた。馬にはまだまだ高さについては余力が感じられるが、この段階で一度ベースを作るつもりで経験を積むことが必要のように思う。馬場については、馬の経験のためとそれまでやってきた事を試したいという私的な理由もあってのエントリーだったが、練習が足りずただ出るだけになってしまった。審判ボックスや雰囲気の影響されるのではと私は予想していたが、馬は落ち着いていてむしろ人間の方が緊張しているくらいだった。ノーザンの野外にも連れていったが、初めての場所や雰囲気にはやはりかなり緊張するようで膠着と発汗がひどく途中で引き返した。しかし、2回目の時には多少落ち着いていて、何個か拾い飛びをしながらコースを一周することができたので、回数を重ねれば緊張癖は改善すると思う。ただ、試合の雰囲気や、周りに馬が多い状況が苦手な性格は相変わらずなので、総合馬としての将来を考えるならばいかに普段通りの状態で耐久に臨むかというのは課題であると思う。

(まだ気が早いかもしれないが…)

北日の LA では減点 0 で回ることができ、ジャンプオフではこれが最後だからと思いきなり急な回転で向かったため拒止してしまったが、3位入賞のおまけも頂いた。私のような下手が乗っても 100cm を多少は余裕を持って回れる馬は、北大で貴重だと思う。私自身、ロイヤルのチーフになるまでに試合で LA を回ったのはヤスで二度と外部の大会のみだったが、本当なら下級生のうちにもっと経験を積めれば良いと思う。競技馬としてのロイヤルの将来についてはまだわからないが、ベースを丁寧にやってきた馬なので、これから長く北大に残る馬になってくれることを心から願う。

最後に、親身に相談に乗り、調教の全てを教えてくださいました貫名さんに心から感謝いたします。山中兄には度々馬場に足を運んでいただき、貴重なアドバイスを頂きました。ありがとうございました。下級生がロイヤル

に乗る機会をあまり多く設けられなかったことは、今ももう少し別のやり方があったのではと反省している点で、後輩たちには申し訳なく思います。また、貫名さんのご厚意に甘えきってしまっていることに、北大馬術部として、また一チーフとしてこれは正しいことなのかと悩みましたが、ロイヤルに長く部で活躍できる馬になってもらうために出来る事、結局はそれを一番に優先した結果の選択でした。手応えを感じながらロイヤルを次へ引き渡すことができたと思っているので、来シーズンの活躍に期待しつつ、海道がロイヤルの良さを大事にしながら馬と共に成長していけるよう応援しています。

安い！うまい！ボリューム満点！！
肉みそラーメン・肉チャーハンの店

大 ラーメン 将

18条店 / 737-7330 (~AM5:00)

22条店 / 747-7776 (~AM3:00)

25条店 / 707-5707 (~AM1:00)

麻生店 / 736-8800 (~AM3:00)

25条店、麻生店では出前も承っております。ぜひご利用下さい。

◆北凜(ネイチャーヒーラー)◆



セン サラ 栗毛

平成10年4月11日生

アメリカ産

父 Valiant Nature

母 Mintullah

平成18年9月18日入厩

野村 基惟

ネイチャーヒーラーは北大に入厩してから前任の山川兄が2年間調教し、代替わり時点で入厩3年目となった。部の中ではまだ新馬という位置づけであったが、徐々に下級生の練習に使っていきながら、11歳という年齢も考えて北日本学生への出場も念頭においていく段階であった。山川兄が札幌に残っている間は、自分は練習をしっかりと見ていただきながら調教の方向性を理解し、馬に試合や馴致などの経験を積ませていく形となった。今の北大のような新馬の調教方法では、前任の先輩の調教方針をしっかりと聞いて理解する必要がある。新馬において一貫した調教方針が無いことは昔からの北大の問題であるが、せめてその馬ごとの調教においては無駄や齟齬を無くしたいものである。

大まかな調教方針としては前年と同じく、コンビネーションを中心として積極的に障害飛越に取り組んだ。今シーズンも道大会にコンスタントに出場し、LAクラスでは安定した走行をできるようになり、最終的にはMDクラスまで完走した。また道大会の度にノーザンの野外コースに馴致に行くようにし、畜大馴致にも参加するなど、耐久審査を意識した馴致も同時

に進めていった。その素直な気性から野外の障害にも臆すること無く取り組んでくれ、穴障害にやや苦手意識はあるものの、その他多くの障害はクリアすることができた。また対外試合やクリニックにも積極的に参加し、とにかく様々な経験を積ませる1年となった。最終的には北日本学生の総合競技にも出場したが、耐久審査で乗り手の経験不足をもちろに露呈し走りすぎてしまい、馬の能力を上手く引き出してあげることができずに失権という形に終わった。人としては大変悔いの残るものとなったが、乗り手に実力と経験があれば、耐久審査の完走はもちろん、全日本学生への権利獲得も十分可能であるように感じた。今後も人馬とも野外の経験を数多く積んでいくことが必要不可欠である。北日本学生以外に総合競技がある大会が無い以上、馴致の段階で野外の経路走行を実際に繰り返さなければ、本番での完走は到底難しい。

自分は新馬調教という形で乗っていくのは初めてであり、この1年どのようにネイチャーヒーラーに乗っていくべきか様々に考えてきた。新馬を調教していく上で、調教者にはある程度「このような馬にしたい」という目標や中心軸が必要である。その軸が無いと調教の一貫性も保たれず、“今何を調教していくべきか”が見えなくなってしまう。北大で新馬の調教を任される人には、十分に調教の進んだ競技馬に乗った経験のある人が多い。その時に掴んだ感覚を活かし、さらに今までのその馬の調教過程を踏まえた上で、自分なりに目標を立てて日々考えながら乗っていく必要がある。

その中で、なるべく基本的でシンプルな考えに戻り、改めて常に実戦を想定して乗ることが大切だと感じた。以下では乗りながら考えきたことをなるべく順序立てて整理してみる。

まず、人間が数メートル先にある障害物を飛び越えようとするときを考えてみる。しかもその障害物は、その人にとって飛べるか飛べないかという高さである。障害に向かってがむしゃらに全速力で走っていただけの人はいないと思う。しっかりと障害物を見ながら、遅すぎず速すぎず力を溜めながら助走をとり、歩幅を合わせて、いざ踏み切る時には上体を起こして強く地面を蹴りあげているだろう。

簡単に言ってしまうと馬も同じである。自由飛越するときには踏み切りを外す馬がないように、馬も障害を見ながら、どのようにしたら飛びやすいか・飛べるか、常に考えながら障害に向かって走っている。そしてそれを使い手が邪魔することがなければ、大抵の場合馬は障害を越えていくことができる。

では、実際の競技で経路を回りながら障害を飛んでいく中で、乗り手がすべきことは何か。それは、それぞれの障害をはっきり認識させ、適切な助走を作ってあげることである。普段のFWでも常にこのことを念頭において運動すべきである。競走馬という動物は、ひたすらに前へ前へと速く走ることを教えられてきた動物である。彼らにとって人の扶助は常に前へのGOサインであり、この状態では障害に突っ込んでいくだけで適切な助走は作れない。（まずそれだけ馬を動かしていることが前提となるが。）特に新馬ではこの傾向が強い。この前へと進む力を、上へ上へ、ジャンプする方向へと変えてあげることが、障害に対する適切な助走を作る上で重要なことである。このためには、前進力を受け止める乗り手のコンタクトが必要不可欠である。馬は、コンタクトという運動の支点を与えられることにより、ただ前に走るだけでなく、自分自身の身体に力を溜め、力の原動力である後肢を大きく使った弾発ある助走を作ることができる。同時に、このコンタクトを維持したまま、馬が障害を認識して準備できる

ように、十分に距離をとってアプローチラインに誘導してあげることが必要である。

このようにして考えていくと普段の FW から馬とのコンタクトをとることは非常に大切であり、コンタクトとは“馬の前進力を弾発力に変えるための支点”と常に意識するべきである。ネイチャーヒーラーは入厩当初から、「口がうるさい、ハミを受けていない」であるとか「巻き込む」であるとか、口向きや頭頸の位置に関して指摘されることが多かった。北大では馬が頭頸を屈撓させたり、顎を譲ったりすることを重視しない意見も多い。だが重要な点は頭頸の形というよりは、“人のコンタクトが、馬の後肢を中心とした運動のバランスを整えるための支点になっているか”である。個々の馬にとってのよりよいバランスは違うと思うし、どこに支点を作るべきかは、試行錯誤の中で馬と共に見つけていくものかもしれない。では馬が頭頸を屈撓させる意味とは何か、ここでまた人間の例えをあげてみる。人が重い荷物を背中に担ぐときを考えてみると、自然と頭を下げ、背中を丸くするだろう。なぜならその体勢が最も脚の力を効率よく伝えやすいからである。このことをそのまま馬につなげられるかはわからないが、背中を丸くして後肢の力をよりよく引き出すために、頭頸を屈撓させ顎を譲らせた位置でコンタクト・運動の支点を作ってあげるとは、少なくとも間違いでは無いように思う。

理屈っぽく長々と書いてしまったが、感覚が大事とされる馬術の中でも、時には理論的に、体系的に考えることも重要であるように思う。新馬を調教していく際には特にその必要性が大きいように感じる。今後も常に考えながらネイチャーヒーラーの調教に携わっていきたいと思う。

最後になりましたが、普段の練習から、試合、馴致、全てに協力してくださった山川兄に深く感謝いたします。ありがとうございました。結果を残せず申し訳ありません。次の乗り手を育てながら、ネイチャーを全日へ連れていくべくこれからも頑張っていきたいと思っております。またお力を借りる時もあると思っておりますが、その際はよろしくお願ひします。

ごはん屋

もとざわ

安く、ボリュームたっぷり、
そして美味しいです。
馬術部御用達の、定食屋さん。

札幌市北区北 22 条西 5 丁目 1-31
TEL 001-716-3403

◆北兔(サクラフォルツァ)◆



セン サラ 鹿毛
平成 16 年 5 月 24 日生
北海道静内郡静内町産
父 カリズマティック
母 サクラキャンドル
平成 18 年 11 月 9 日入厩

宮本 亮

入厩してから 2 年が過ぎましたが、調教は比較的順調に進んでいると思われ
ます。馬も素直な馬で、これといって人を困らせるようなことはありません。
引き馬や調馬索など、馬の下にいるときから人馬の関係を正しく認識させ、
また音声扶助に対しても反応を求めてやってきました。ハミを支点としてとら
えるようになり、飛越に関しても FW に関しても、ハミを中心に、弧を描くよ
うに動くようになってきました。まだ左右への脚反応が鈍く、横への動きにぎ
こちなさがあり、また確かなコンタクトがなければ飛びが弱くなる傾向があ
るなど、まだまだ人を選ぶところがあります。来季はそういった、この馬の底
辺の部分を広げつつ、この馬のもつ素直さ、柔らかさ、力強さを伸ばし、野
外の障害にも取り組んでいきたいと考えています。

去年は、綾部がこの馬の責任者として面倒を見てくれました。綾部の扱い
方を見て「あ、やべーなー」と思うことは多くありました。もどかしい思
いを感じたこともありました。ただ、この馬の背中に最も長くいたのは僕
でしたが、それ以外の時間、この馬を管理し、この馬を生かすためにバ
イトをし、面倒を見てくれたのは綾部をはじめとした現役部員でした。彼

女や現役部員が、自分たちなりにしっかりやってくれたおかげで、今この馬は幸せそうにしています。

また、規定上、競技会への出場が現役のみに限られた今年、出戸が軽い「乗り」で、この馬をサポートしてくれました。ゲネシスの北日優勝も含め、彼には感謝しています。

最後に、個人的な話を。

1年のときから今まで、様々な面で僕の“先生”であった札幌競馬場の歌川さんが3月には中京競馬場に転勤されます。学生の事情を汲み、この部の活動を評価してくださり、付かず離れず、そんな感じでいつも僕たちのことを気にしていただきました。

来年は、二日酔いで1日をふいにすることもなくなります。

二日酔いで「今日は行けない」と現役にメールすることもなくなります。寂しくなります。

ありがとう、歌川さん。

さようなら、先生。

—入厩報告—

◆北菓(ログキャビン)◆



セン サラ 栗毛
平成8年3月8日生
アメリカ産
父 Woodman
母 Great Christine
平成21年9月15日入厩

山本 栄輔

北菓号は9月15日にノーザンホースパークより入厩しました。北菓号は、帯広畜産大学で柏華という名前で六年間在籍していました。性格は神経質でやや難がありますが、体は丈夫で力も強いので、それをいい方向に持っていければと思います。

◆北焔(ファイヤーマリオ)◆



セン サラ 黒鹿毛
平成6年3月25日生
北海道白老群白老町産
父 トウショウマリオ
母 アンバーエルン
平成21年10月31日入厩

出戸 裕人

昨年10月31日にJRA馬事公苑より苑長の本城さんの紹介で入厩しました。とても調教が進んでいて良い感覚を掴める馬なので、北大で長く活躍できるようしっかりケアしながら運動したいと思います。

-エルグレイ号追悼-

北大馬術部史上に名を残す名馬・エルグレイ号が、2009年9月に北大厩舎にて21年間の馬生を終えました。亡くなった前後の詳細な経緯と共に、本馬の偉大な功績と部への計り知れない貢献を讃え、歴代チーフから寄せられた本馬の軌跡を、追悼の意を込めてここに収載します。

◆エルグレイ(サンエイアサマ)号

父 メジロエスパルダ 母 スナークリーズン

セン・サラ・芦毛

平成元年6月10日生

北海道三石町 畑端牧場 産

平成14年9月16日入厩



◆戦績

'03	北日学	8位	全日学	46位
'04	北日学	2位	全日学	出場
'05	北日学	3位	全日学	46位
'07	全日学	54位		
'08	北日学	優勝	全日学	出場
'09	北日学	出場		

エルグレイ号死亡報告

馬匹 海道 磨里

平成21年9月13日午前3時50分エルグレイ号が疝痛のため死亡いたしましたので、ここに報告させていただきます。

9月12日の夕飼いをつけた直後から、前掻きや発汗、寝ころぶなどの疝痛の症状を現し始めました。そこで曳き馬を30分ほどして様子を見ましたが、回復の様子は見られなかったため、次に調馬索を30分ほど回しました。調馬索を回した後はやや落ち着きを取り戻し、呼吸なども安定したように見えました。しかし、しばらくすると再び前掻きや寝ころぼ

うとする様子を見せたので、OB の川崎さんにも相談して鎮痛剤を投与し 2 時間おきに様子を見ることにしました。

午前 1 時の見回りで、寝転がって動いた際に馬房の壁に肢が引っ掛かりうまく立ち上がれなくなっているエルグレイ号を発見しました。立ち上がるまでにはかなりの時間を要しました。その後も寝たり立ったりを繰り返しました。呼吸が乱れたり、苦しそうにしたりしていたので午前 3 時に OB の大崎さんに来ていただき、再び鎮痛剤を投与しました。立ち上がった時に補液も行いましたが、その途中で再び倒れて、そのまま立ち上がることなく静かに息を引き取りました。

部員で協議した結果、エルグレイ号を火葬して遺骨を部に置くことになりました。そこで、今回エルグレイ号を火葬するにあたっての経緯をお知らせいたします。

本来でしたら、ノーザンホースパークにいらっしゃる OB の川崎さんの紹介でエルグレイ号を業者に引き取ってもらはずでしたが、その業者では火葬はしていただけないとのことでした。現役・OB とともに最後の供養として、火葬をして遺骨をいただきたいという思いが強かったため、OB にも協力してもらい、シンコウブラウンに以前乗っていた堀江さんに火葬のできる施設を紹介していただきました。そこでは本来ならば、馬一頭の火葬は行っていないのですが、施設の方のご厚意によりエルグレイ号のみの火葬をしていただくことができました。

その後しばらくはエルグレイ号の馬房に遺骨や遺品を置いてお線香をあげられるようにして、OB 戦の時にエルグレイ号の追悼式を行い馬場の横に遺骨を埋めました。11 月には歴代のエルグレイ号のチーフから墓碑を寄付していただきました。

馬は疝痛を起こしやすい動物ですが、その要因には①胃噴門部の括約筋が発達しているために嘔吐が困難であること、②胃の容量(約 10L)が体格の割に小さいこと、③小腸(空腸)が広範な腸管膜によって体壁の背側に吊るされていること、④大腸の一部が体壁に固定されていないこと、⑤消化管の太さが著しく異なる部位(盲腸の回腸口、結腸の骨盤曲や胃状

膨大部など)があり、腸管内容物が停滞しやすいこと、⑥腸管に分布する末梢神経が鋭敏であることなどが挙げられます。

疝痛の種類には過食疝、便秘疝、風気疝、変位疝、痙攣疝、寄生疝などがありますが、今回のエルグレイ号が夕飼いをつけた直後から疝痛を起こしたことを考えると、小腸性の疝痛で、消化管の捻転や閉塞などを伴う変位疝であったと考えられます。変位疝は消化管の位置が変化したり、捻れたりすることにより生じ、激しい疼痛を伴います。軽度の結腸の変位では、回転によって自然に整腹することもあります。重度の結腸の変位や小腸の捻転では消化管の血行障害が生じ腸壊死に陥り、開腹手術が必要になります。死亡率が高いのもこの変位疝です。

長きにわたって北大のエース馬として活躍し多くの部員を全国の舞台へ連れて行ってくれたエルグレイ号を失った悲しみは大きく、言葉では表せません。そして馬を扱うことの難しさ、また大きな責任が伴うことを再認識しなければいけないと痛感しました。今回のことをから学んだことを十二分に生かして、これからも部員一丸となって部活動に励んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、今回の件につきましてご尽力頂きました OB の方々、堀江さんには深く感謝の意を表しますとともにエルグレイ号の冥福を祈って終わらせていただきたいと思います。



エルグレイは平成14年9月16日に「大物助っ人外国人選手」(市川部長談)として入厩しました。確かに雄大な馬体で「大物」でしたが、当時は肺の調子が悪く、冬合宿の頃には、駈歩をただけで非常に苦しそうな呼吸になり、春まではほとんど常歩と速歩しかできない状態でした。

そんな状態だったので、本当に「大物助っ人」になれるのか心配していましたが、暖かくなるにつれ体調も上向き、シーズンが始まる頃には、馬よりも自分の技術を心配しなくてはいけなくなってしまいました。北日学では「大物」ぶりを遺憾なく発揮し、その雄大な馬体から繰り出される、大きすぎる歩幅に踏み切りを読み違い、空中分解してあわや落馬というところでしたが、何とか馬上に踏みとどまり、全日学への切符を手にすることができました。

今になって振り返ってみると、悪戦苦闘しながらも北日本、そして全日本と繋がっていく過程の中で、ワクワクするような経験をしたことが、現在の仕事を選んだ根っこの部分にあるような気がします。そう考えると、たまたまこの馬のチーフになったことが、今の人生を決めたと言っても過言ではないと思います。

最後になりますが、自分にとってエルグレイは大変優秀な「先生」でした。また、たくさんの良い思い出をプレゼントしてもらいました。そんなエルグレイに感謝をして、冥福を祈りたいと思います。



エルグレイ号は7年間北大馬術部にいて、私はそのうちの2年間をチーフとしてコンビを組んでいました。その2年の間に、北日学二走個人2位・二走団体優勝・MBクラス優勝・全日学満点走行(一走目のみですが…)と、今振り返っても信じられないような成績を残させてもらいました。大学から乗馬を始めた素人で運動神経もよくない乗り手が乗っても、これだけの活躍ができたということから、間違いなくエルグレイはスーパーホースであったと思います。

私は現在も札幌にいて、たまに馬場にも顔を出させてもらっていましたが、エルグレイが亡くなってからは、自然と馬場に行く機会は減った気がします(現役の皆様すいません…)。それだけ自分における北大馬術部⇨エルグレイであったのかなと、改めて感じるようになりました。

今回エルグレイの追悼特集の原稿依頼を頂いたので、いくつかエルグレイとの思い出を書かせて頂きます。

<1年の秋～2年の秋>

私がエルグレイを初めて見たのは、1年生のときです。合宿から帰ってきた私は、馬房の裏戸からとてつもなくでかくて白い顔を出している馬を見ました。思わず「何だこの馬！これサラブレッドじゃないだろ」と言ったことを覚えています。そして、初めて練習で見たときのこと覚えています。まるで跳ねている様に駈歩する姿は、とても印象的で面白い馬だなと見ていました。

しかし、そんなエルグレイは肺に持病があり、時折馬房で何もしていないのに、呼吸が荒くなって休馬ということも多々ありました。練習もチーフの高島兄が軽く乗って終了、ということもあり、当時下級生の間ではあまりよく分からない・愛着の湧きづらい存在でした。それでも、試合ではM級クラスをコンスタントに帰ってくる姿を見るにつれ、徐々にエルグレイに乗りたいと思うようになっていました。エルグレイは高い飛越能力を持っているだけでなく、メインフィールドの小野さんに調教されたため、乗馬としての基礎がしっかり作られている馬でした。上手くなって全日学に出たい、と思っていた自分には、この馬しかいないとまで考えていました。

私が2年生の秋にエルグレイは高島兄とのコンビで全日学に出場、私はその馬付きをしました。エルグレイの飛越・跳躍は全国でも有名になりました。ただそのとき私が最も印象的だったのは、二走目直後で息があがっているエルグレイ以上に息があがっていた高島兄の姿でした(高島兄すいません…)

<2年の秋～3年の夏>

その後私がエルグレイとコンビを組むことになり、高島兄の指導の元、全日学を目指すことになりました。しかし、最初は自分の実力のなさに愕然としました。乗り変わってすぐの頃は、まず駈歩を維持できないという状態でした。エルグレイのダイナミックな動きについていく騎座がないという現実いきなりぶつかってしまいました。

それでも高島兄の指導と、部のエースを任されているというプレッシャーで少しずつでも何とか形になっていきました。私が2年の秋から3年の夏まで、高島兄は毎週末函館から練習を見に来て頂きました。平日自分で考えて乗って悩んで、週末は高島兄に教えてもらう、そしてまた平日は自分で考えて乗るというパターンが良かったのではと思っています。何かあっても高島兄がいるという安心感はとても心強かったです。そしてエルグレイに乗るに当たっては、エース馬を任されているというプレッシャーの他に別のプレッシャーがありました。自分が全日学に出なければ即離厩になるというプレッシャーです。前述のように、持病があり下級生の練習にも十分使えない馬であるのだから、結果を残す以外にこの馬の部における存在理由はないと感じて毎日乗っていました。そういった危機感も練習の質を上げるという意味では良かったのではと思っています。

春になり競技に出始めるようになってからは、押せ押せムードでした。エルグレイは普段はおっとりしており、ともすれば練習はめんどくさいと感じているような素振りを見せていました。しかし、試合会場に行けば、やはり競技馬の本性与霧囲気ががらりと変わり、競技開始のベルが鳴ると普段の倍の力で走り出します。そんな本気モードのエルグレイの馬上では何もできませんでした。だから、余計なことはしないで捕まっていよう、というのが上手くハマったのか、エルグレイはどんな障害も

難なく飛越してくれていました。そんな押せ押せムードの中で出た春季大会のMB競技では、他のエントリー選手の顔ぶれにビビってしまっている鞍上をよそに、エルグレイは普段どおりコースを無過失で帰ってきてくれました。

そして目標としていた北日学では、懸念していた輸送と夏の暑さもこなして、個人2位。北翔・北彗・北旋風と臨んだ団体では優勝することができました。

<3年の秋～4年の秋>

3年の北日学から4年の春までは、今思えば最悪の時期でした。北日学での成績は自分の実力だ、とは思っていたわけではありませんでしたが、いわゆる自称中級者特有の油断と勘違いがありました。ただ乗って回ってくるという状況から、次のレベルとして走行中の馬をコントロールしようとはしました。このときコントロール＝馬の邪魔をするになってしまっていて、徐々にエルグレイとの歯車が狂い始めていきました。その結果が、全日学での3反抗Eでした。反抗をされたときは、今まで止ったことのない馬が止ったというショックで、何もできませんでした。

そして、その狂った歯車は冬を越えても直すことができていませんでした。併せて半澤杯前には肺の持病が悪化し、1ヶ月くらいまともに乗れませんでした。北日まで時間がない中で、上手くいかない・持病のせいで運動できないという最悪の状態でした。そんな状況を見かねたメインフィールドの小野さんに、馬の状態立て直しと乗り手の指導をして頂きました。馬が障害に恐怖心を人間に不信感を持っている状態であるから、基本的な運動を丁寧に行い、それらを解消していく必要があるとのことでした。小野さんのご指導のおかげで、人馬ともに自信を取り戻すことができ、徐々に調子も上向きになっていきました。

そして迎えた北日学では、春先までの不調に対する不安、昨年2位のコンビであること、部の主将がエース馬に乗っているということが、プレッシャーとして感じましたが、エルグレイは素晴らしいパフォーマンスをしてくれました。結果は3位でありましたが、ただ無我夢中で乗って2位だった前年より、不振を乗り越えることができた分喜びは大きく感じられました。

北日学後は部を卒部し、純粹に馬に乗ることに集中できたい時期でした。4年の北日学が終わってようやく少しだけ馬術がわかるようになる、と先輩方がおっしゃっていましたが、その言葉の意味がようやく分かった時期でもありました。

全日学では、最後の競技だから今できるだけのことをやって完走するんだ、という気持ちで臨みました。十分すぎるほど馬付きをつけてもらい、初めて競技に100%集中することができました。そのおかげで、エルグレイは隠し持っていた、いつもよりさらに一つ上のギアで走行しました。まるで最初にコース走行を行った頃のように、ただしがみついているだけでした。走行直後、自分としては反抗せずに帰ってこられた、とホッとしていたのですが、会場が異様に沸いていました。何かかと思って見た電光掲示板で初めて満点走行をしたことに気がつきました。

二走目も、緊張がないといえば嘘になりますが、平常心で望むことができました。ただ結果としては、二回の走行をきちっと帰ってこられる（そして二走目のほうがよい走行をする）ことが、本当の乗り手の実力であると感じました。二反抗であやうく失権になりかけましたが、何とか帰ってくることができました。結果だけ見れば、減点31と散々でしたが、走行を終えたときには自然とエルグレイに対する感謝の気持ちが沸いてきました。余程のことがない限り経験できないことを経験させてくれたエルグレイには、本当に感謝してもしきれません。

<その後>

エルグレイは住江君が引き継ぐことになり、私はしばらく大学にいることから、住江君の練習を見るようになりました。しかし、自分が2年間経験したことを、上手く住江君に伝えることはできませんでした。私は、2年間乗っていたからこの馬については自分が一番分かっていると自惚れていました。もっと住江君の感覚を大事にしながら協力していければと、後悔しています。それでも、住江君が全日学のコースを帰ってきたと聞いたときには、我がことのように嬉しく思いました。

その後は山川君と武藤君が乗り、毎年その活躍を楽しみにしていました。その一方で、もう高齢でありいい時期で引退させてあげたいなあ、というのが私の偽らざる心情でした。

エルグレイが亡くなったことは、早朝に井上先生と武藤君、山川君から着信があった時点で、何となく感じました。

その後のことは、武藤君を始め現役部員のみんなが本当によくしてくれたと思います。関係者の伝手を使って、遺体を茶毘に付し馬場に納骨することまでしてくれました。改めてエルグレイは部員のみんなに愛されていたのだと感じました。

ありがとうございました。

<終わりに>

本来もっと簡潔に纏めようと思ったのですが、何せ記憶が曖昧になっており、それを一つずつ思い出しながら書いたため、時系列で長々とした文章になってしまいました。また、原稿のメ切も遅れてしまいました。申し訳ありませんでした。

現役時代にはなかなかこういった思い出を書く機会がなかったので、今回この機会を頂けてよかったと思います。

後日歴代のチーフの協力で、納骨をした場所にお墓を建てることができました。

エルグレイも安らかに眠ることができているのではと思っています。

それでもこれからも馬場で部員のみんなが元気に練習しているのを見て、エルグレイも気が気でならないのかもしれませんが、でもやっぱりエルグレイのことなので、天国でも相変わらず練習より飼い葉に夢中になっているような気がします。

では、最後に…

リーズン、本当にありがとう！



こいつはサラブレッドじゃない。きっと乗馬用の品種の馬なんだ。本気でそう信じ込んでいた。大きな馬体、大会では手前がわからないくらいのダイナミックな駆歩、卓越した飛越力…ものすごい馬なんだと思わせる半面、馬房では常にさく癖、急に狂ったようにいれ込んだかと思うと飼い付けの時間だ。そんなリーズンがかつては競馬場で走っていたこともあるサラブレッドだという事実を知った時はにわかには受け入れることができなかった。どうやらリーズンは札幌競馬場で走ったのを最後に未勝利で引退、そのまま北海道で乗馬として第二の人生(?)を送り始めたようだ。つまり、リーズンは速く走るために生まれてきたサラブレッドではなく、乗馬のために生まれてきたサラブレッドなんだと考えを改めた。そしてリーズンと2年間コンビを組ませてもらい、4年生のときには全国の舞台へと僕を連れて行ってくれた。ただ惜しむらくはリーズンは僕を背にその能力を遺憾無く発揮することができなかったということだ。彼にしてみれば非常にもどかしかったであろう。だから僕は彼に対して申し訳なく思うとともに、彼とコンビを組めたことに感謝している。

彼と外乗に行ったり、垂れた下唇で遊んだり、突如象の足のように腫れた肢を治療してもらうために授業をほっぽり出して泊まり込みでノーザンに連れて行って川崎兄のお世話になったり、彼との思い出は色々あるけれどもそんな中でも一番の思い出は最終学年の時の全日だろうか。一走目の準備運動では至極調子がよく、緊張はあったが少し気持ちに余裕を持って本番に臨むことができた。1番、2番障害はきれいに通過し、少し間が空いた3番障害でビタッと拒止し、少し後ずさった。しかし、あわてずにしっかりと向かいなおせば跳べると感じ、気合いを入れるために軽く打脚したその時、馬が前進し二反抗失権を告げるベルが無情にも鳴り響いた…。自分の頭の中は一瞬にして真っ白に。一体どういうことか理解できなかった、というより理解したくなかったというほうが正しいかもしれない。団体を組んでいたおかげで二走目も出場することができたが、昨日の余裕はどこへやら。準備馬場でもビタビタ拒止し、何とかしなければと頭はいっぱいいっぱい。本番ではとにかく勢いに任せた走行になってしまい、馬がのびてしまい落下が多かったが、二日間の競技の中の一番時計でゴールイン。唯一80秒を切るタイムで走行し、見

ている人をさぞかしハラハラさせたのか記録より記憶に残る走行だったという言葉をいただいたのが今でも深く印象に残っている。

リーズンの追悼文というより自分の恥ずかしい思い出話になってしまっ
て非常に恐縮だが、彼と過ごした日々は確かに僕の中に残っており今
でもそれは輝きを放っている。願わくば彼にとっても僕と過ごした日々
が、そして北大馬術部で過ごした日々が幸せなものであるよう、冥福を
祈ります。リーズンありがとう。



リーズンといえば、前田兄とのコンビで全日一走目を満点走行するなど、私が入部した頃から北大の看板馬として活躍している馬でした。一方の私は、2年生秋からの1年間は、迷馬・パワフルショットとのコンビで、迷走を繰り返していました。そんな私がリーズンとコンビを組めるなどとは想像もしていませんでした。

3年生の秋からリーズンのチーフとなったわけですが、春先まではよい感覚を掴むことができずにいました。手応えを感じ始めたのは6月頃からでした。徐々に馬のよい動きを引き出すことができるようになってきました。周りからどう見えていたかはわかりませんが、8月の北日の頃には、私とリーズンだけの世界を作り上げることができていたように思います。感覚としては、漫画『ダービージョッキー』の15巻・153話、154話の主人公の感覚に近いものがあると思います。ですから、北日は、競技というよりも、自分の感覚が正しいのかを実証するための舞台でした。このように、自信をもって臨んだ北日でしたから、優勝という結果は、決して“偶然”ではなく、“必然”であったと思っています。

もちろん、全日でも十分やれるという手応えは掴んでいました。東京への出発直前には、リーズンが度々、馬繋場から東京の方角の空を見つめているということがありました。この頃は、完全にリーズンと通じ合えていました。実際の全日では、人が気負い過ぎていたのか、経験不足が露呈する形となり、悔いの残るものとなってしまいましたが、やってきたことに間違いはなかったはずです。

色々な経験をさせてくれたリーズンには、本当に感謝しています。これからは、リーズンに続くエース馬が育つように、馬場の脇からずっと見守っていて欲しいと思います。



北日での不甲斐ない結果、全日でのリベンジを心に誓った日からたったの2週間後にこんなことになってしまうとは、夢にも思っていませんでした。

リーズンは高齢で、自分が入部した頃からそろそろ引退かもしれないと言われていたにも関わらず、20歳を迎えた今年も普段の様子こそしまりが無くボーッとした顔をしていましたが、騎乗時には抑えきれないぐらい元気よく走っていて自身よりも若い部員を乗せて練習させてくれ、競技場へ行けばまだまだ若いもんにはと言わんばかりの気合の入った動きをするし、春先にはケガもしましたがその時も予想以上に早い回復を見せ、その様子からは年齢ほどの衰えを感じさせませんでした。それだけにこのような形で競技生活を終わらせてしまったことは、非常に残念で申し訳なく思います。

リーズンとコンビを組んで過ごしてきたのは10ヶ月間という短い間でしたが、とても充実した時間でした。全日が終わり山川兄から引き継ぎ乗り始めてからしばらくは、まったく乗りこなせずに自分の未熟さをいやと言うほどリーズンに教えられました。それでも乗り続けるうちにリーズンは乗り方を教えてくれ、自分でも上達を感じることができ、各大会を経てたどり着いた北日では、結果こそ散々だったものの、競技としての馬術の楽しさと厳しさを教えてくれました。そして最後にはあらためて疝痛の恐ろしさと、人生何が起こるかわからないのだと言うことを教わりました。最後の一年、リーズンと共にやってこられてとても楽しかったです。

症状が見えてから息を引き取るまではおよそ9時間足らずとあっというまの事でしたが、何かもつとしてあげられることはなかったのかという思いは拭えません。数時間のうちにどんどん弱っていき起き上がることができなくなっていく様子、最後の力を振り絞り立ち上がったあとまたふらふらと倒れていく姿、徐々に弱くなっていく一呼吸、一呼吸の間など、最後の夜のリーズンの様子はこれまで明確な死の瞬間と言うものに立ち会ったことの無かった自分にとってはとても強烈なものでした。怪我や病気による死は避けられない物も多いとは思いますが、乗馬である以上乗馬として死んでいくのは当然のことかもしれませんが、北大馬術部

の馬たちにはできるだけ元気なまま引退して行って欲しいなと改めて思いました。

最後になりますが、エルグレイ号の火葬にあたりご協力いただいたクレイドルファームの堀江様、三石家畜診療所の方々に厚くお礼を申し上げます。学生の間だけでなく、就職してからも忙しい中練習を見てくださった山川兄、本当にありがとうございました。大崎兄、川崎兄、住江兄には足の怪我をした時や、最後の疝痛の時などリーズンの健康面で大変お世話になりました。方々への連絡などいろいろ動いてくれたドンパの野村にも感謝します。最後の最後までリーズンに付き添って声をかけ続けてくれた鎌田、多田の二人も本当にありがとう。そのほかにもOB、ドンパ、後輩、いろいろな方から優しい言葉をかけていただいたり様々なご協力をいただき、ありがとうございました。

8年間、北大馬術部に多大なる貢献をしてくれたリーズン、文字通り老体に鞭打って頑張らせちゃったけど本当にありがとう。リーズンが北大で過ごした日々が幸せであったことを祈ります。



馬術部の皆さんへ

本城 敬文（昭和 53 年卒）

昨年から馬事公苑で仕事をしています。縁あってファイヤーマリオ号をもらっていただきました。北大馬術部のレベルアップに貢献してくれれば幸いです。

さて、馬事公苑では、皆さんの最大の目標である全日本学生以外にも毎週のように馬術競技会が開催されており、ハイレベルな人馬を数多く見ることができます。そのような上級競技の活躍馬はほとんどが輸入馬です。

学生馬術の世界でも、私立の有力大学は高額な外国産馬を所有しており、その多くは馬場馬ですが、障害馬もいます。また、騎乗者の経験は豊富で、大学までに数年以上乗っていた者が大勢います。そんな中で我が北大馬術部は、何を目標とし、どのようにしてそれを目指せばよいのでしょうか。

はっきり申し上げて、大学 4 年間では中央の選手に技術的に勝つことは無理です。でも、その差を縮めることは可能です。目指すのはどこまで縮められるかでしょう。

30 年以上前の私の現役当時から、経験と馬場馬術の技術では中央の連中にかかわないので、障害に特化しよう。そして効率よく障害馬術の技術を習得するには伊式馬術が最適である。その真髄は 2 ポイントの前傾姿勢で馬の動きを邪魔せず随伴することであるとされました。そしてそれを実践すべく日々の練習に励んだのはもちろんですが、向けたらなんでも飛ぶ馬に育てるために曳き馬での馴致と自由飛越に明け暮れました。その結果、運にも恵まれ好成績を残すことができました。

この考え方は、今も基本的にそのとおりでと思います。しかしながら、中央の人馬のレベルは昔以上に向上しており、障害の経路もミスを誘う難しいものになってきて中央と地方大学の差は広がる一方のような気がします。

そのような状況であればこそ、昔以上に基本の大切さを最近実感しています。

人に求める基本は、馬の動きに随伴してバランスを真直ぐ保てることです。バランスを保ち、馬の動きに合わせて騎乗者の体重を正しく働きかけることによって、扶助が伝わります。また、騎乗者は馬に何を要求しなくてはいけないか理解していることが求められます（最新の調教理論を勉強してください）。さらに、扶助は on-off を明確にして馬が扶助に従ったら OK だとわかるように使用しないことです（馬が反応しないときには強い扶助が必要）。

騎乗技術は騎乗して練習するのが当たり前でありそれがベストなのですが、馬に乗っていなくても部分的な練習は可能です。北京オリンピックの法華津選手も自宅でバランスディッシュ等を用いてバランス訓練をしているそうです。ジョーバやロデオボーイといった健康器具もありますので、是非活用してください。完全な馬の動きではなく、変化のない単調な動きではありますが、目を閉じて馬上体操をするなど使い次第で有効な練習が可能です。競馬の騎手も木馬で騎乗フォームや鞭の持ち替えの練習をしています。騎乗経験の少ない皆さんは、馬の下でする練習でいかに騎乗時間を補うか、方法を考えて取り組んでください。

馬の調教方法においても基本的な考え方は昔と同じです。馬に求めることは、基本的な馬場運動ができること。落ち着いて小さな障害を飛越できること。物見せずどこでも落ち着いて運動できること（馴致）です。

ここでも基本が重要で、学生障害馬でも3課目馬場くらいはきちんと踏めることが要求されます。障害の経路をスムーズに回るには、意図した地点での歩度の伸縮・回転が正確にできないとミスにつながります。また、障害飛越の練習は、50cm程度の低障害（最初は地上横木から）を落ち着いて完歩を自由に調整して走行できるトレーニングが有効です（大障害クラスの馬でもこの練習をしています）。どんな障害でも落ち着いて飛越するためには馴致が重要です。騎乗時間は限られるので、騎乗していないときの馴致を工夫する必要があるでしょう。

最近、個人的に再認識したのが、馬の気持ちを考えた調教の重要性です。

馬がいつもフレッシュな気分であるように調教にメリハリをつけることを、ヨーロッパの超一流トレーナーが説いています。毎日同じメニューではなく、障害練習の翌日はリフレッシュのため外乗中心にしているのです。

また、調教のバックグラウンドとして重要なのが、人がボスになり馬との信頼関係を築くことです。人と一緒にいることが心地よい状況だと馬がわかるように調教することです。馬は集団生活の動物で、ボスに従います。それはボスと居ると安心安全だからです。人はボスとして馬の自分勝手を許してはいけません。馬が解るまで段階的にプレッシャーを与えます。そして、馬が従っているときはプレッシャーから開放し快適を提供します。これはナチュラルホースマンシップやジョインアップの考え方で、騎乗調教でも応用できます。

以上、現役の皆さんの参考になればといろいろ書いてきましたが、書き終えてみると、逆鞭を持つての前傾姿勢を除けば30年前にやっていたこととなんら変わらないことがわかります。紀元前400年以上前からある馬術の歴史からしてみれば、そんな短期間で基本的なことが変わることはないのも当然といえば当然です。皆さんは基本を大切に、短期間で技術を習得できるよう頭を使って頑張ってください。

馬と詩歌について

——万葉集を主軸に近世まで——

横田 盛

(昭四〇年卒)

私は学生時代、馬術部に在籍し、卒業して乳業メーカーに就職したので馬と牛に縁が深い。馬を牛に乗り換えたのである。『故事ことわざ辞典』(創拓社出版)には「馬を牛に乗り換える」ということわざが載っており、その意味は「足の速い馬から遅い牛に乗り換える意で、優れたものを捨てて劣ったものを取る愚かなたとえ」と書いてある。乗り換えて四〇年近くたつが愚かなことであつたかどうかはまだ判断がつかないでいる。齋藤善一先生のように五十年以上も馬と牛の両方にまたがっておられる先輩もいる。

それはさておき人類の歴史にとつて大型の家畜となれば馬と牛であり、両者はほぼ同格に評価されてきた。しかしながら近年、輸送用、農耕用の馬はすっかり機械に換わつたので馬が著しく減少した。平成一四年における国内の牛の飼養頭数は乳牛用、肉牛用合わせて三三三万頭であるのに対し、馬の飼養頭数は一〇万頭に過ぎない。

牛馬は同格に評価されてきたと今言つたてまえ、この現象はいささか公平を欠く。よつて本日は牛に少なく馬に多い詩歌に焦点を合わせてバランスをとることとするので暇のあつた方はお付き合ひ願いたい。

1. 万葉の馬

万葉集には四五一六首という膨大な数の歌があり、その中に牛や馬を題材としたものがある。牛はわずか四首に過ぎないが馬は、青馬、赤駒、小馬、黒馬、駒という言葉でなんと九〇首もあるのである。鈍重な印象の牛は歌になりにくく、優美な容姿を持ち、躍動感にあふれる馬は歌になりやすいのであろう。四首の牛の歌もここで紹介するほどの内容ではないので割愛し、馬の方は名歌とされるものを、いくつか紹介することとする。

たまきはる 宇智の大野に 馬並めて 朝踏ますらむ 其の草深野

間人連老

万葉集 卷一——四

奈良県南部の五条市宇智。JR和歌山線の北宇智駅から南西一帯の山野が宇智野、宇智

の大野といわれる地域であった。金剛山の南側の裾野にあたる。

「宇智の大野に、馬を並べて朝の野原をお踏みになっておいでだろう——その草深い野原を——。

草深い宇智の荒野に、いましも狩に出立しようとする馬上の凛々しい大君（舒明天皇）の勇姿が目に見えぬ」という意味である。

万葉の時代は女性上位の時代である。男は女のもとに通う。夜やってきて朝帰って行く。五年十年と通ってようやく同棲する。妻は夫が馬に乗って通ってくるのを首を長くして待っている。

味酒の 三諸の山に 立つ月の 見が欲し君が 馬の音ぞする

人麻呂歌集 万葉集 卷二——二五二二

三諸の山は奈良県桜井市の三輪山一帯をさし、味酒は三諸の山にかかる枕言葉。「立つ月の」「立つ」はあらわれるの意味。口語訳は「三諸の山に出る月が見たいように、会いたいあなたの馬の足音がする」という意味になる。

馬の音の とどともすれば 松蔭に 出でてぞ見つる けだし君かと

作者不詳 万葉集 卷二——二六五三

女性からみて親しい男性を「君」あるいは「背」という。この歌はわかりやすいので口語訳は必要ないであろう。

ミユラーの詩にシューベルトが曲をつけた「冬の旅」二四曲の中の二三番目に『郵便馬車』がある。馬の蹄の音に恋人からの手紙を空想して胸が高鳴る。この曲のテンポはかなり速く、馬の速度は「はやあし」よりも「かけあし」に近い印象を受ける。これも馬だから詩になるのであり、歌になるのだ。

男性から妻や恋人を親しんで言う言葉が「妹」または「我妹」である。男の方も馬に乗って早く恋人のもとへ行きたい。

遠くありて 雲居に見ゆる 妹が家に 早く至らむ 歩め黒駒

人麻呂歌集 万葉集 卷七——二二七一

「遠くにあつて、雲のかかっているかなたにある恋人のもとに早く行きたい。馬よ急い

で「おくれ」という意味である。

この歌は「歩め」と言っているが、もつと気がせいて、一目散に馬を走らせているような歌がある。

いで我が駒 早く行きこそ 真打山 待つらむ妹を 行きてはや見む

作者不詳 万葉集 卷十二——三一五四

「さあ、我が駒よ、早く行っておくれ。真打山という名のように待つて待っているであろう妻を、行つて早く見よう」。真打山は大和(奈良県)と紀伊(和歌山県)の境にある標高二二二メートルのゆるやかな峠。

催馬楽は平安時代、宮廷貴族たちの間で盛んに愛唱された。奈良時代の民謡を、平安時代に至つて雅楽の管弦の影響によつて歌曲としたものである。その代表曲が『我が駒』で万葉集のこの歌を基にしている。

いで我が駒 早く行きこそ 待乳山 あはれ待乳山 はれ 待乳山
待つらむ人を 行きてはや あはれ 行きてはや見む

万葉集にもどる。

妹がりと 馬に鞍置きて 生駒山 うち越え来れば 黄葉散りつつ

作者不詳 万葉集 卷一〇——二二〇一

大和と河内(大阪)を分ける生駒山脈の主峰生駒山(六四二メートル)を馬で越える。「妻のところに行こうと、馬に鞍をつけて生駒山を越えてくると、紅葉が散っている」。

この男はそんなに若くはないのであろう。一目散ではなく、紅葉をめぐる余裕があり、風雅の心が表われている。

さ檜隈 檜隈川に 馬とどめ 馬に水飲へ 吾外に見む

作者不詳 万葉集 卷十二——三〇九七

夜が明ければ夫は帰って行く。一瞬一刻でも永く、夫の姿を見たいと「あなたの馬をとめて、馬に水をやってください。その間だけでも、よそながら見ていきましょう」と離れ難い思いを訴えている。「愛している」などという陳腐な言葉を一切使わず、何と生き生

きと愛を表現していることか。檜隈は高松塚古墳のある奈良県高市郡明日香村にある。

柵越しに 麦食む小馬の はつはつに 相見し児らし あやに愛しも

作者不詳 万葉集 卷一四——三五三七

柵をへだてて飼料の麦を食う馬の動作を言っている。柵をへだてて食うので馬は少しずつしか食べられない。そこからまだほんのわずかしか会ったことのない恋人を思う男の飽き足らないがゆえに恋しくてならない気持ち詠っている。「はつはつに」は「わずかに」という意味。

馬柵越しに 麦食む駒の 馬らゆれど 猶し恋しく 思ひかねつも

作者不詳 万葉集 卷十二——三〇九六

「柵越しに首をのぼして飼料の麦を食ひ、飼主に罵り叱られる馬のように、私も（母さんに）叱られるけれど、それでも彼がやはり恋しくて、思い切ることができない」。

右記二首は「麦を食べる馬」を表現に使い、前者は男、後者は女であるから恋の贈答歌のようにみえるが両者は時代も地域も異なり、全く無関係である。

馬は男女の恋のよすがとなる要素がある。民謡『ひえつき節』を思い出してみよう。

源平の戦いに敗れた平家一門は落人となつて各地の山中深く逃走し、そこに住みつく。

日向の国、椎葉村に逃れた平家の残党を追いかけて源氏は弓の名人那須与一の弟那須大八が椎葉にやってくる。山また山の中、いつしか両者の戦いの意識もうすれ、那須大八は平家の鶴富姫と深い恋仲となる。

庭の山椒の木 鳴る鈴かけて

鈴の鳴る時や 出ておじやれ

鈴の鳴る時や 何というて出ましょ

駒に水くりよと いうて出ましょ

大八は鶴富姫に会いに来て鈴を鳴らす。鶴富姫は周囲の者に対し、馬に水をやってくる

と言つてデートに応じるのである。

おまや平家の

公達ながれ

おどま追討の

那須の末

そのうち鎌倉幕府より戦いは終わったとして大八に帰還命令が伝えられる。しかし仇敵平家の姫を連れて大八は鎌倉へ帰るわけにはいかない。

那須大八

鶴富捨てて

権葉たつときや

目に涙

再び万葉集にもどる。

妻が夫に馬を買つてやろうという歌がある。

(長歌)

つぎねふ

山背道を

他夫の

馬より行くに

己夫し

徒歩より行けば

見ることに

音のみし泣かゆ

そこ思ふに

心し痛し

たらちねの

母が形見と

我が持てる

まそみ鏡に

蜻蛉領巾

負ひ並め持ちて

馬買へ我が背

作者不詳

万葉集 卷一三——三三二四

(反歌)

馬買はば

妹徒歩ならむ

よしゑやし

石は踏むとも

我はふたり行かむ

作者不詳

万葉集 卷一三——三三二七

妻の長歌と夫の反歌からなる一対の夫婦愛の歌である。「つぎねふ」は山背(京都府)に

かかる枕言葉。「山背道」は大和から奈良山を越えて山背国へ行く道。「まそみ鏡」はよく

澄んではっきり写る鏡。「蜻蛉領巾」はトンボの羽のように透き通つて風にひらめくスカ-

フ。「よしゑやし」は、たとえ。「石は踏むとも」の「石を踏む」は道で難渋する意。

妻の長歌の意は「山背の国への道を、よその夫は馬で行くのに、私の夫は歩いて行く。

見るたびに、声をあげて泣きたくなる。そのことを思うと胸まで痛む。母の形見として大切に持っている鏡と蜻蛉領巾を、ともに肩に背負って売りに行き、その金で馬をお買いなさい、私の夫よ」という意味である。夫の反歌は「おれが馬を買っても、おまえは徒歩で歩かなくてはなるまい。たとえ石がごつごつころがっている川原を難儀しながら行くのであっても、おれはおまえと一緒に行く」という意味である。

まことに美しい夫婦愛である。妻の厚意に夫はすぐ反応して馬は買わなかったようである。この夫婦の名前は伝わっていない。

勝手なことを言わせてもらおうと、この際夫はデンと構えて妻に馬を買ってもらい、後で十倍にも二十倍にもして返してやったら良かったのではないかと思ったりもする。この時代より九百年の後、織田信長に仕える薄給の若い家臣、山内一豊は千代というカミさんにその持参金とヘソクリで名馬を買ってもらい、一躍有名となって家康の時代は土佐二四万石の藩主となった。この件は拙著『食文化・民俗・歴史散歩』（新風舎）で述べたので詳細はそちらにゆずる（馬術部時代の思い出もこの本のところどころに載せた）が、山内一豊の例を考えるとやはりこの男はカミさんの厚意を受け入れた方が後世に名を残せたのではなかったかと思うのである。

この歌に似て妻が筑紫に派遣される防人の夫に馬をつけてやりたいが結局できなかったことを示す歌がある。

赤駒を 山野に放し 捕りにて 多摩の横山 徒歩ゆか遣らむ

宇迦部黒女 万葉集 卷二〇——四四一七

「赤駒を山野に放牧してあるが、うまく捕えられず、横に連なっている多摩の山々を、徒歩でゆかせることだろうか」。多摩の横山は今の東京の多摩丘陵である。夫の名は武蔵国豊島郡出身の椋椅部荒虫であった。放牧してある馬をつかまえて夫を乗せてやりたかったのに、たぶんその時間さえなくて乗せられなかったくやしさがにじみ出ている。

2. 鏡について

足踏が転化して「あぶみ」となったとされる。我国では古墳から発掘される鏡や馬の埴

輪についている鍧は現代に近い輪鍧である。五世紀以降は靴を前後に切った前半分のような鍧が作られるようになり、平成一五年十月の正倉院展に展示されていた奈良時代の鞍には鍧鍧がついていた。平安時代には華麗な舌長鍧へと発展し、江戸時代に至っている。

鍧を発明したのは乗馬の得意な騎馬民族ではなく、得意でない農耕民族であるという説が有力である。古代ローマを縦横に描いている塩野七生著『ローマ人の物語』は平成一五年末で十二巻まで出版されているが十一巻目の本の見返しには古代ローマ帝国の五賢帝の最後を飾るマルクス・アウレリウス帝（在位一六〇—一八〇年）の騎馬像の写真を載せている。この像は鍧をつけていない。「科学の創始者であるギリシヤ人や、工学の天才であったローマ人にしてなぜ（鍧を）考えつかなかったのか不思議なくらいだが、古代の人々は鍧を知らなかった。医学の祖とされるヒポクラテスも（中略）、長時間ぶら下げたままでいるための、うっ血による脚の病いを、騎士の職業病であるとしている。（中略）鍧は、紀元十一世紀になってようやく普及する。騎士が中世の華になりえたのは、いちに鍧の出現のおかげであった」としている（ローマ人の物語2 新潮社 一七五頁）。

これから推測すると古代ローマ人（ヨーロッパ人）よりも日本人の方が八百年近くも早く鍧を使っていたことになる。

万葉集を編纂したと云われる大伴家持は天平二〇年（七四八年）の春、越中国（富山県）の国守として越中国内を馬で巡行し、「鍧」が出て来る次の歌を作っている。

立山の 雪し消らしも 延槻の 川の渡り瀬 鍧漬かすも

大伴家持 万葉集 卷一七——四〇二四

立山とは現代の立山、延槻の川とは現代の早月川である。立山連峰の剣岳に源を発し、魚津市と滑川市の間を流れて三〇キロの間に標高差三千メートルを一気に下って日本海に注ぐ激流である。

「立山の雪がとけたのであろう。水量がふえた早月川の渡り瀬を馬で渡ると、ひたひたと鍧の位置まで水が来る」とうたい、凜然とした冷気の中に春の到来を感じている。

3. 騎馬民族征服説の矛盾

戦後の混乱期（昭和二三年）に江上波夫氏の提唱した騎馬民族王朝征服説という学説が

大いに話題となった。四、五世紀頃、北東アジアの騎馬民族が南下して朝鮮半島を経て、北九州に侵攻、やがて倭人を征服して大和朝廷を樹立したというものである。この説は素人受けするので今も有名であるが、学術的にはほとんど否定されている。我々はとことん稲作民族であつて、記紀、万葉の時代からその価値観、発想法、習俗において遊牧民族的なものとはほとんどない。

遊牧民は一定の土地に定住せず、家畜を去勢して従順にさせ、家畜と共に草原を移動する文化である。決定的なことは日本は幕末に至るまで家畜の去勢をしなかったことである。大陸の去勢文化を知らなかったわけではない。あれだけ大陸文化をとり入れながら宦官の制度を採用しなかったことからしても日本人はむしろ去勢文化を拒否していたと考えられる。当然馬も去勢しない。明治初年、日本に來た西洋婦人が「日本の馬は猛獣だ」と言つた話が残っている。明治以前の馬乗りはキン付きの馬に乗って今よりはるかに難しい馬術の訓練をしていたように思われる。後述の徒然草の馬術論にもそのことがうかがわれる。

4. 馬酔木あしびについて

「あしび」は「あせび」とも云う。山地に自生する常緑低木で春に壺形の小さく白いスズランのような花が咲く。牛馬が食べると麻痺するというので「馬酔木」と書く。今も奈良地方の山野に多い。

六八三年、天武天皇崩御の後、天武帝の第三皇子の皇太子大津皇子は謀反のかどで殺されてしまふ。二四歳。大津皇子は文武両道にたけ、人望があり、万葉集より先にできた漢詩集の『懷風藻』や『日本書紀』はその人となりを絶賛して若き皇子の命を惜しんでいる。大津皇子の実姉おほくのひめみこ大泊皇女は伊勢神宮を司る斎王で伊勢の斎宮に派遣されていたが弟の死で都の飛鳥に帰り、たった一人の肉親の死を悲しむ歌を数首残している。

磯のうへに 生なふる馬酔木を 手折たらめど 見すべき君が ありと言はなくに

大泊皇女 万葉集 卷二——一六六

「池の磯のほとりの馬酔木の花を見れば、愛する弟が亡くなったことに、こみあげる悔しさをうたわないではいられない」という意味である。

見まく欲り わがする君も あらなくに 何しか来けむ 馬疲るるに

大泊皇女 万葉集 卷二——一四四

「会いたい弟が死んでしまったのに、何故飛鳥に帰ってきたのだらう。馬でさえ疲れてしまふこの道を……」とさらにつのる悲しみを歌にしている。

喫茶店で一番多い名前は「ルノアール」で日本中どこにでも見かけるが、夜の街には「馬酔木」という名のバーを全国各地で見かける。酔っ払うと、ついもう一軒行きたくなる名前なのである。

5. 「駒」という表現

「駒」は「小馬」、「仔馬」が縮まった言葉であり、三才以下の馬をさす。万葉集中の馬に関連する歌九〇首中、「駒」という表現は十六首あるが、平安期以降、馬の雅語として歌には「駒」が使用され、その大勢を占めるようになる。

駒並めて　いざ見にゆかむ　ふるさとは　雪とのみこそ　花は散るらめ

よみ人しらず　古今集——二二一

古今集にある歌で、大変判り易い歌である。作者不明のため桜花の散る「ふるさと」も不明であるが、平安京から同僚達と馬に乗って花見をしようというのであるから京に近い場所であろう。

ささのくま　檜のくま川に　駒とめて　しばし水飲へ　影をだに見む

神あそび歌　古今集——一〇八〇

同じく古今集の歌であるが、前述の万葉集三〇九七の歌

さ檜隈　檜隈川に　馬とどめ　馬に水飲へ　吾外に見む

の「馬」を「駒」に換えている。

駒とめて　袖うちはらふ　陰もなし　佐野の渡りの　雪の夕暮

藤原定家　新古今集——六七二

これは新古今集の歌である。小倉百人一首の編者であり、中世の歌の第一人者である藤原定家の最も有名な歌である。「佐野の渡り」は和歌山県新宮市佐野である。

「馬をとめて袖に積る雪を振り払う物陰もない。佐野の渡しの場の雪の夕暮よ」という意味である。

「馬」が出てくる歌は古今集に五首、新古今集に五首である。全て「駒」という表現を使っている。歌数では古今集は一一一首で万葉集の四分の一、新古今集は一九七九首で万葉集の二分の一であるが明らかに馬の歌が少なくなっている。馬の歌が万葉集なみに詠

まれたとすれば古今集で二〇首、新古今集で四〇首はなければならぬことになる。馬に関する歌の著しい減少である。馬への関心が減つたのであろうか。

大沼公園の駒ヶ岳をはじめ、木曾駒ヶ岳、甲斐駒ヶ岳と、「駒ヶ岳」という名の山が全国にあり、山の名として一番多いのではないか。ところが「馬ヶ岳」という名を聞いたことがない。一方、山の尾根は「馬の背」というところが多いのに「駒の背」というのはまず聞かない。このあたりの使い分けはどうなっているのだろうか。インターネットのキーワードでその数を比較すると

駒ヶ岳	三八〇〇〇件
馬ヶ岳	三六件
駒の背	二〇件
馬の背	一九〇〇〇件

という数字になった。

6. 吉田兼好と馬

『徒然草』の著者吉田兼好はどの程度の乗り手であったかは不明であるが、若い時は北面の武士であったから馬術の心得もあったのであろう。『徒然草』の中で馬術の奥義を述べるとともに処世訓を述べているようでもある。

徒然草 一八五段

城しろ隨まわ奥守おくまもり泰盛たいせいは、双ふたなき馬乗りなりけり。馬をひき出させけるに、足をそろへてしな闕まをゆらりとこゆるを見ては、「これはいさめる馬なり」とて、鞍を置きかへさせけり。また、足をのべてしな闕まにあてぬれば、「これはにぶくしてあやまちあるべし」とて、乗まらざりけり。道を知らざらん人、かばかり恐れなんや。

同 一八六段

吉田と申す馬乗りの申し侍りしは、「馬」ことにこはきものなり。人の力、争ふべからずと知るべし。次にくつ轡わづ・鞍くらの具に、危き事やあると見て、心にかかる事あらば、その馬を馳ますべからず。この用意を忘れざるを馬乗りとは申すなり。これ秘蔵の事なり」と申しき。

7. 江戸時代

小林一茶の有名な句に

雀の子　そのけそこのけ　お馬が通る

というのがある。大抵の人は子供の頃に聞いたことがあるであろう。この句碑が東京都江東区大島の愛宕神社にある。

一茶には他にも馬を歌った句がある。

馬の子や　横にくわえし　草の花

母馬が　番して飲ます　清水かな

春駒の　歌でとかすや　門の松

わか草に　背中をこする　野馬かな

夕霧や　馬の覺し覚え　橋の穴

芭蕉にも馬に関する句が数句あるが割愛する。一茶の方が馬に対するやさしき、思いやりが深いようである。

ついでに一茶の有名な牛の句もここに載せておく。

春風や　牛に引かれて　善光寺

江戸時代後期の国学者、歌人でほのぼのとした暖かさを示す歌を多く作った橋曙寛たむらなげん（八一二〜六八）に馬の歌がある。

たてがみを　とらえまたがり　裸うまを　吾嬬男子あづまのこの　あらなづけする

私が北大二年の夏休みに友人と網走方面に旅行したことがあるが原生花園の内陸側、瀋澗湖にそって斜里に向って歩いていた時のことである。放牧されている数頭の馬に出会った。皆駄馬であったがその中の一頭の「たてがみを　とらえまたがり　裸うまに」乗ってみた。鞍がないのは一向にかまわれないが手綱がないと動かしようがない。「あらなづけ」はできなかった。ただ乗っただけで終わってしまったが友人が撮ってくれたなつかしい写真がある。

近藤勇に

山守りの　使いは来ねど　馬に鞍　おいてぞ待たむ　花の盛りを

という歌がある。新撰組が結成される前、近藤が武蔵の多摩にあって田舎道場で剣術の修業にあけくれ、雄飛を待っていた時期の心境を歌にしたものである。

8. 馬子唄

馬子唄についてもふれてみよう。馬子唄は馬を引きながら唄う民謡で息を永く引つ張つてうたい、旅客を慰める風情ある歌として古くから行なわれた。追分節ともいう。

箱根馬子唄

箱根八里は 馬でも越すが 越すに越されぬ 大井川

箱根の峠に馬子が唄う、悠然としたこの歌が響きわたったことであろう。大井川に橋がなかったのは徳川幕府が江戸防衛のため、大井川に橋をかけさせなかったことによる。

小諸馬子唄

小諸出て見よ 浅間の山に 今日も煙が 三すじ立つ

黒馬よなくなよ 家やもう近い 森の中から 灯が見える

小諸馬子唄が追分の発祥となり、全国各地に追分節ができた。信濃川に沿って新潟に伝えられ、さらに北前船の船乗り達が港町に伝え、北海道にも伝えられて、やがて民謡の最高峰である『江差追分』となる。

9. 新渡戸稲造と馬

新渡戸稲造と同郷で弟子でもあり、「銭形平次」で有名な作家の野村胡堂が書いた「新渡戸稲造先生」という短いエッセイがある。謹厳実直そのものの新渡戸博士はある宴会の席上で老妓が唄った

咲いた桜に なぜ駒つなぐ 駒が勇めば 花が散る

という都都逸(ととゑ)がいたく気に入り、何度も唄わせて聞きほれていたという。桜の方に重点があるが、この馬は江戸期の馬だからセン馬ではなく、いささか元気がよすぎたのであろう。

この歌は江戸時代中期(一七七二年)の俗謡集「山家烏虫歌」(さんかこむしうた)に収録されている。これは後水尾院の命で収集されたと言い伝えのある諸国民謡集(三九八篇)で、この歌は伊賀の歌の中にある。馬が勇んであれば満開の桜の花は盛んに散る。春の命が惜しげもなく消尽される光景である。「駒が勇めば 花が散る」の句、日本人の美意識の原点に触れるため、ほかの歌謡にもしばしば使われている。また全国各地に「駒つなぎの桜」という名木があり、それを紹介しておく。

義経駒つなぎの桜 長野県下伊那郡阿智村

八幡太郎義家駒つなぎの桜 埼玉県北葛飾郡鷺宮町

木曾義仲駒つなぎの桜 岐阜県中津川市神坂

武田信玄駒つなぎの桜 長野市若槻山城跡

加藤清正駒つなぎの桜 松本市松本城内

10. 森鷗外、夏目漱石、正岡子規と馬

日露戦争の時、第二軍の軍医部長（少将）として出征した森鷗外は明治三十七年六月二七日、満州は遼東半島を行軍中、「我馬痛めり」という詩を作っている。

わが馬やめり

つねはすぐれて

足掻疾き馬

けふおくれたり

ひねもすゆきし

道はいく里ぞ

黄なる畑土

かぎりしられず

丈に満たざる

高きこしに

つれなる馬の

とほざかる見ゆ

ゆきなやみつつ

わが馬嘶ゆ

夕日うつつき

わが馬嘶ゆ

（嘶ゆ Ⅱ いななく）

鷗外は「当時我が馬の病めるは予の自ら病めると擇ぶことなし……」と記している。鷗外の愛馬に対する思いが伝わってくる。

最後に一首の中に馬と牛を詠みこんだ歌を紹介しておこう。明治中葉、和歌の改革をしきりにとなえ、実践した正岡子規は明治三十一年、大まじめで次の歌を作っている。

馬の尾に つきて走りし 蠅もあらむ とりのこされし 牛の尾の蠅

子規と大の親友であった俳人夏目漱石はその前年（明治三〇年）熊本の高橋の教授となっていたがよく似た俳句を作っている。

馬の蠅 牛の蠅来る 宿屋かな

漱石先生は馬の蠅と牛の蠅を区別できたようである。やはり凡人とは違う目を持っていたようである。

「註」

万葉集の歌は一番から四五二六番まで番号がつけられている。馬の歌九〇首の番号は左記の通りである（馬酔木の二〇首を除く）。

- 四、四九、一三六、一六四、二三九、二六三、三六五、四七八、五二五、五三〇、七二五、七九三、八〇四、八〇六、八〇八、八二二、八六三、八七七、九二六、九四八、九五六、九六六、一〇〇二、一〇一九、一〇四七、一一〇四、一一四八、一一五三、一一九一、一九二、一二七一、一二八九、一二九一、一七二〇、一八五九、二二〇三、二二〇一、二四二一、二四二五、二五一〇、二五二二、二六五二、二六五三、二六五四、三〇六九、三〇九六、三〇九七、三〇九八、三一五四、三二七六、三二七八、三三〇三、三三一三、三三一四、三三一七、三三二七、三三二八、三三八七、三四三九、三四四一、三四五一、三五三二、三五三三、三五三四、三五三五、三五三六、三五三七、三五三八、三五三九、三五四〇、三五四二、三八四六、三八八六、三九五四、三九五七、三九九一、三九九三、四〇二二、四〇八一、四〇八三、四一一〇、四一二二、四一五四、四二〇六、四二四九、四二六〇、四三七二、四四一七、四四二九、四四九四

(二〇〇四年二月二日)

本稿は七十五年史原稿として年史編集委員会に寄稿されたものですが、ご本人のご了解のもとに部報に掲載することとしました。部報への転載を快諾いただいた横田兄に感謝申し上げます。

北大馬術部七十五年史編集委員会

—北海道大学水産学部馬術部—

部長 伊藤 海

私たち北水馬術部は現在 JRA 函館競馬場内乗馬センターにおいて新 4 年生 2 人新 3 年生 10 人で活動をしています。自馬を持っていないため夕当や部費のためのアルバイトがなく、本学に比べると負担が少ない形で運営しています。一方、JRA の職員の方々の指導のもと練習を行っているため、騎乗技術の向上に関してはとても恵まれていると言えます。

また、北水馬術部が北日本学生馬術連盟を脱退して今年で 3 年となります。同時に、復活した札幌—北水交流戦も今年で 3 年目を迎えます。北水馬術部としてはこの交流戦を 1 つの目標として活動を行っています。選手権予選以外にもこのような形の交流が今後も続き、互いに刺激できる関係を築くことができれば幸いです。



●野村 基惟(獣医・前主将)

馬と過ごした4年間、そして人と過ごした4年間、自分なりに妥協せず
に過ごしてきたつもりでも、まだやれることが沢山あった気がして思いは
尽きません。入部当初の僕のモチベーションは、「高い障害が飛びたい」
とか「全日に出たい」とか、とても単純なものでした。ただ部活の中での
役割が大きくなるにつれ、部員みんなが楽しめる部活を作りたい、馬と過
ごすこの部活の素晴らしさを知って欲しい、その思いがもう1つ大きなモ
チベーションになりました。主将になってからは、1頭1頭、一人ひとり
に対して真剣に向き合ってきたつもりです。みんなにその思いが少しでも
伝わったなら嬉しいです。皆さんも、愛する馬のため、そして人のために
馬術部をやり抜いてください。それが、きっと自分を大きく成長させてく
れます。

そして北日・全日を目指すみんなへ。あの舞台は良いものです。ベルが
鳴ってからゴールを駆け抜けるまで、競技場は君と愛馬だけが主役です。
他に遮るものがない、熱く静かな世界です。あの感覚がもう味わえないの
は本当に残念ですが、これからのみんなに譲ろうと思います。

最後に、4年間でお世話になったOBの方々、先輩・後輩、そして何よ
り最後まで共に過ごした6人のドンパに心から感謝したいと思います。あ
りがとうございました。馬に恵まれ、人に恵まれた4年間でした。

—最後までイケメンでした。

—言葉で語るができないもの、それが野村兄のオーラ。

—とにかく完璧なザ・主将。

—負けられない存在です。

●内山 知(農・前バイト)

過ぎてみれば本当にあつという間の馬ばかりの4年間でした。馬が好き
な人間とかわいい馬たちと熱く泥臭いかけがえのない4年間を過ごすこと

ができました。この部活で経験した様々な経験はきっと今後の人生でも大いに役に立つでしょう。もう毎日馬に乗れないと思うと寂しい限りですが、現役部員の今後の活躍をますます期待するばかりです。

こんなわがままだった自分を卒部まで支えてくれた先輩、同期、後輩のみなさん、そしてかわいい馬たち本当にお世話になりました。本当にありがとうございました。

—スぺへの愛を感じます。そして後輩に優しいです。

—男には厳しくないですか？

—すべてが素敵すぎます。

—ケイバの極意教えてください。

●齊藤 孝洋(文・前後援会)

とにかく目の回るような4年間でした。

正直、楽しかったことや嬉しかったことよりも、苦しかったことや悔しかったことの方が多かったかもしれません(飲み会とか)。でもそれだけにとっても大きな思い出として心に残っています。あれだけ馬を身近に感じられる生活を送れたことにとっても感謝しています。

ちなみに僕は就職後も朝3時起きの生活になるので、いい「慣らし」になりました…。

—ジーちゃんが寂しがってますよ。

—誰からも愛される先輩でした。すごいポジションだと思います。

—たまには、顔を見せて下さい。待ってます。

—齋藤さんといえばロンハー泊まり。北日本一の有名人に会えて良かったです。

●田中 里枝(農・前会計)

入部したての1年目は慣れないことばかり、自分のことだけで精一杯で周りのことに気を配れませんでした。悩んでいる同輩に目が行かなかつたり。2年目で初めて後輩が出来ると先輩として在るべき姿を意識し始め、

また自分の不甲斐なさに苛立ちました。3年目になると上級生としての立場や部活を維持、運営する面での人としての態度、人間関係の難しさにぶつかりました。4年目は最上級生として、またチーフとして、自らを律しなければならない中での自分の甘さとの葛藤。自由に行動できる分、それに伴う責任と規律を乱してしまいかねない危なさを実感しました。

卒部してOGになった今、「あのときああすればよかった」「これはこういうことだったんだ」と思うことは数多くありますが、どれも貴重な経験でした。充実した馬術部生活でした。

私の場合、卒部して得られたものは自分への「自信」よりも「ダメだし」ばかりだったけれども、これを糧に「ダメだし」をひとつずつ克服していきたいと思います。

競技馬と共に活躍出来る部員もいれば、そうではない部員もいます。しかし、競技面以外にも馬術部生活から学べるものは無限にあり、また、そこで築かれる仲間との絆や思い出は間違いなく人生でかけがえのないものです。これからの馬術部を支えていく皆様方には楽しいことよりも、悩んだり、挫折したり、悲しいこと、つらいことの方が多いかもかもしれませんが、曲がりなりにも最後まで馬術部生活を全うしてほしいと思います。また、馬術部は外部の方々からの協力なしには成り立たない部活であり、そうした人々への誠意も忘れないでください。

目を背けたくなる現実に直面してもなんとかやり過ごしていったのは馬のおかげでした。私が卒部を迎えることができたのは先輩後輩、ドンパ、その他関係者の方々や厚別区の家族のおかげでした。この場を借りて心より感謝の意を申し上げます。本当に、ありがとうございました。

—シーベは幸せ者だと思います。

—たまに言うボケが笑えました。

—シーベストとともに大変お世話になりました。たまにある手作りの差し入れ、美味しかったです。ありがとうございます。

—怒った時の姉は怖かったです。

●武藤 将充(工・前主務)

馬術部は何の目標もあてもなく北海道へ渡ってきた自分に4年間の目標と居場所を与えてくれました。可愛い馬たちとすばらしい仲間たちとの出会いを与えてくれました。とても貴重な経験をさせてくれました。

つらいこと、きついこと、いやなこと、かなしいこと、色々あったけれど、それでも馬術部員として過ごしてきた4年間はとても幸せだったと、心からそう思います。

色々と迷惑をかけたこともあったと思いますが、ありがとうございます。

ーシーズンと武藤さんの一走目は、僕の心の中で最高の走行として刻まれています。

ーすごく猫っぽい。トラも卒部してしまいました…。

ーイジリ好き。フリが厳しいです。

ー一年生と一緒に部室にいる部門第一位。一緒にシーズンの最後を看取ることが出来たことは忘れません。

●村木 泰子(獣医・前馬匹)

引退から5カ月、ドンパで卒部旅行の帯広、釧路へ出かけてきました。17年ぶりの津波警報のため帰り道が封鎖されるというプチハプニングの中、みんなで地図とテレビのニュースを見比べてどうやって帰ろうかと話し合っているのを見て、こんな風に何でもみんなで話し合っ乗り越えてきたよなあ…と現役時代が思い出されました。山あり谷ありの3年半だったけど、こうして楽しく過ごせる仲間と引退まで続けられて本当に良かったね。

先輩方にはたくさんのお話を教わり、馬術部を続ける上での大きな目標も与えてもらいました。ご迷惑をおかけした事ばかりでしたが、ご指導頂き本当にありがとうございました。後輩たちに教わった事もたくさんあります。どうもありがとうございます。OBになった今強く思うのは、とにかく今いるみんなが満足して馬術部をやり遂げられるといいなあということです。一人一人が部の中で自分の居場所がちゃんとある、そんな馬術部であってほし

いと思います。そして馬たち。嫌な事があって腐りそうになっても、馬と接し向き合っていると誠実であろうと思わせられました。ロイヤル、シンコウ。大好きな馬たちのそばにいるのは本当に楽しかったです。

たくさんの方々にご迷惑をおかけし、悩みも多い3年半でしたが、多くの事を学ばせて頂きました。お世話になった皆様、そして馬たちに心から感謝しています。ありがとうございました。

— 威厳を感じます。

— そのしっかりさと女性らしさを分けて欲しいです。

— 常に余裕があるように見えました。

— 頼りになる姉的存在。

◎三大学主将（北日閉会後にて）





◎内山兄とスペリオール



◎田中姉とシーベスト



◎村木姉とロイヤル



◎武藤兄とトラ



©齋藤兄とジーニアス

一部員紹介

●4年目



(1枚目 左から岩野・綾部・海道・出戸・山本)

☆綾部 美晴(主務・会計)

ジーニアスの病気を治してみせます。

- ・メガネをかけたマリア様。ジーちゃんの母的存在。
- ・理知的な女性です。
- ・愛のムチをくれます。お菓子もくれます。
- ・料理上手な良い奥様になりそう。

☆岩野 公美

シンコウと心中します。

- ・ゆるゆるでオトナな姉が大好きです。
- ・まさに美白!!
- ・岩野姉キャラ目指します。
- ・スープカレーサークル会長!!

☆海道 磨里(馬匹)

気づけばもう4年目になりました。残りの現役生活を部員と馬たちと楽しく過ごしたいと思います。

- ・厳しいながら、後輩のことを凄く思ってくれています。
- ・ギャップで男を誘惑する魔性の金沢ガール。
- ・またアムロ歌って下さい!
- ・すごく乙女だったり

☆出戸 裕人(北日幹事・アルバイト)

乗る馬は全頭、強気でのる。

- ・テンションがあがったときの出戸さんには誰もかないません。
- ・超スーパーエース。
- ・「オッケーイ↑↑」
- ・笑いの重心

☆山本 栄輔(主将・後援会)

今年は、シンコウとに負けない前進気勢とログに負けない体力でいきます。

- ・学祭での値切りが凄かったです。大胆不敵。
- ・ビデオ王
- ・ユーモアを持とう。
- ・ボケ倒しの下級生にいつもツッコミを入れてくれます

●3年目



(左から 速水・瀧澤・坂田)

☆坂田 直子(副務)

今週は5人に道を訊かれました。

人の役に立てる人間になりたいです。

- ・心優しき姉。
- ・本当に真面目な頑張りやさん。
- ・もしかしたら、本当の天然とは彼女のような人を言うのかも。
- ・女子部室を大きく設計し直して下さい。

☆瀧澤 省吾(副将)

そろそろ運が向いてくると思うのですが。

- ・いろいろ大変そうですが、僕はあなたについていきます。
- ・部の活動への貢献度はまちがいなく一番です。
- ・災難が絶えない苦労人。
- ・今度こそネイチャーと北日で戦いましょう！

☆速水 秋(記録・ホームページ)

今年は授業中の睡眠時間を削っていこうと思います。

- ・コンパでの眠り姫。
- ・学校と部活両立してください。
- ・やさシーベスト。
- ・部の気取らないマドンナ。

●2年目



(1段目左から 大森・波田地・加藤・西村・久野

2段目左から 江口・山川・宮田・柳田・多田・岡崎)

☆江口 遼太(作業)

今年はさらに馬に没頭しつつ、成績は落とさない感じで頑張ります。

- ・力持ち。頑張れ箱番ちょふ！

- ・頭脳派。
- ・馬とぼっかりしゃべらないでください。
- ・よく考えてるなーって思う瞬間がある。

☆岡崎 遼太郎(飼糧)

尊敬する人ができました。

- ・センスは断トツ。でも何か足りない男。
- ・函館からカニ、待ってます。
- ・服は tomorrow land。美容室は Deco。ワックスは NAKANO。
- ・ワックス族その①

☆大森 杏奈(馬備)

1鞍1鞍大切にしていきたいです。

- ・にんじん育ててる。
- ・馬に乗ったら男前。
- ・他の人には無い何かを持っている。
- ・大変だと思うけどがんばってね。

☆加藤 亜也奈(衛生)

少しずつでも成長できればと、ちりも積もれば山となる。

- ・今まで出会った中で最強の天然ちゃん。いつも笑顔でかわいい。
- ・実は部内最強？
- ・ごめんなさい。
- ・実は過激派。

☆久野 紗絵香(大会関係・部報)

楽しみながら頑張っていきたいです。

- ・久野ちゃんがいないと家へ帰れないよ。
- ・Dryな東京っ子。
- ・シンコウ応援団の1人。
- ・物まね天才

☆多田 健一郎(薬品)

自然体でいます。ご迷惑おかけします。

- ・くねくねしてる。
- ・あらゆる分野で活躍してくるオールマイティさを持っている気がする。
- ・そのまま。
- ・見た目は大人。頭脳は子供。その名は…エロ細胞ーグ多田。

☆西村 英里(ビデオ)

傷つけちゃいますが、悪気はありません。気をつけます。

- ・ウソやん!
- ・馬術部においてスタイリッシュを保っている。
- ・足の長さを分けて下さい。
- ・女帝への道は磐石。

☆波田地 利子(大会関係・部報)

日進月歩。

- ・体の倍たべてる気がする。
- ・小さいがんばり屋。
- ・物をなくすことに関しては天才。
- ・一人で生活できてるのか心配です。

☆宮田 昇太(衛生)

- ・練習がきつなくてもバイトする。バイトがきつなくても練習する努力家。
- ・一年男子で一番モテル。エガオガステキ。
- ・ドッチボールで最後までのコッているイメージ。
- ・かわいいキャラだけど言うことは遠慮がない。

☆柳田 睦仁(大会関係・部報)

東京に、行こう。

- ・みんなのことよく考えてると思います。
- ・オカマにモテそう。
- ・隠れイケメン。髪を盛ることに命をかける。
- ・ワックス族その②

☆山川 晃平(企画)

この海で一番自由だったやつが、海賊王だ！！

- ・チャライ。ナンパ野郎。でも純粹。やりやがったな!!
- ・そのノリの良さは頼りにしてます。
- ・そこはボケるところじゃないだろ！
- ・人生の先輩です。

●1年目



(一段目左から 納多・澤田・板谷・耕三寺・田中、
二段目左から 平芳・高居・紺野・松尾・谷本・中村)

☆板谷 巧

頼れるキャラを取り返します。

- ・なんて言ってるかわかんない。ふあい。
- ・文句たれのイケメンボーイ。
- ・しっかりしてください。

☆耕三寺 顕範

骨を折っても心は折れずにやっつていこうと思います。

- ・いろいろ凄いものを持っている。隠れたスーパーボーイ。
- ・アイスを愛す。
- ・乗れなくても当番に練習に励む努力家。逆境に負けずに頑張っ欲しい。

☆紺野 紘矢

チャラいと言われぬように真剣に頑張ります。

- ・山川 2 世。
- ・チャラいけど、なんだか垢抜けない。
- ・思いがけない行動をする。

☆澤田 恵梨子

先輩たちのようになるために努力します。

- ・アネゴ肌。頼りになります。
- ・心配りのきく、出来るオンナ。
- ・えりこ

☆品川 雅彦

早く一人前になりたいです。

- ・スタイリッシュおしゃれ。and パスタ。
- ・折れてしまいそうな細さ。
- ・大人すぎます。

☆祖父江 友芳

全日で勝負できる馬を育てます。

- ・ブラックその①
- ・百点満点の笑顔の下に何を隠し持っているのか…
- ・ソビー

☆高居 名菜

真面目キャラ目指して頑張ります。

- ・目指せぶりっ子キャラ。
- ・ゆるカワ系。
- ・関西弁がイイ。

☆田中 愛子

4年間頑張ります!!

- ・話せる女・・・かも。
- ・意外なおシャレさん。
- ・けっこうたくましい

☆谷本 章

怪我せずがんばります。

- ・灘が送り込んできた関西弁兵器。
- ・よくしゃべる。うるさい。
- ・くしゃみがおもしろい

☆中村 円香

馬とうさぎとパンダをこよなく愛します。

- ・乙女。
- ・車酔い×
- ・部内最小。

☆西野 綾乃

毎日成長できるようにがんばります。

- ・君のがんばっている姿は見るひとを癒すよ。
- ・真面目
- ・みんなに愛されて欲しい

☆納多 春佳

頑張ります。咳止まりません。

- ・お嬢様オーラ発散中。
- ・あたま良い。俺よりも。
- ・頭いいのか、なんなのか、よくわからん

☆平芳 悠人

がむしやらに頑張ります!!

- ・目が笑っていない期待のエース。
- ・きのこ嫌い。
- ・ブラックその②

☆松尾 慧

箱番レースで山川さんを抜きます。

- ・まつおつえー
- ・見た目によらずポテンシャルは相当高い (コンパ時)
- ・くりくり
- ・チームシンコウの新人か!?

☆和田 茜

水産なので1年半ですが頑張ります!!アラーム以外で起きるのが怖いです。

- ・サンデーサイレンスに乗りたい
- ・良いお嫁さんになれる。
- ・水産ですが何年でも頑張ってください!

MEIJI



時代の大きな転換期を迎える中、酪農・畜産分野においても
効率だけでなく、安全な生産物の提供、
地球環境への配慮が求められています。

当社は設立以来一貫して、良質の飼料と優れた飼養管理技術の提供を通じて
豊かな食生活の向上に貢献しています。

明治飼糧株式会社

〒130-0021 東京都墨田区緑1-26-11 明治乳業ビル6階

【リクルートニュース】(応募書類提出中)

本職種/営業職(明治乳業)に就く。酪農・畜産業界の自社農場で飼料、エンターテインメントの分野で日々成長の新人を募集。興味のある方は、
【仕事内容】事務仕切、大卒170,800円、修士122,000円、博士167,000円、専攻職(乳牛)世帯員約58名、本社(東京都墨田区)【勤務先】札幌支店(北海道)
【応募資格】酪農・畜産分野の経験が望ましい。酪農・畜産分野の経験が望ましい。酪農・畜産分野の経験が望ましい。酪農・畜産分野の経験が望ましい。
【連絡先】札幌市中央区北4条東2丁目8-2 マルイト北4条ビル 8F 明治飼糧 札幌支店 TEL 011-261-9141

【連絡先】札幌市中央区北4条東2丁目8-2 マルイト北4条ビル 8F 明治飼糧 札幌支店 TEL 011-261-9141

馬と大地と、人との絆

新千歳空港から車でわずか15分
 ここでは 時間が緩やかに流れています。

約15万坪の広大な敷地のなかには
 馬たちとのふれあいはもちろん

花と緑あふれるガーデンや、多彩なアクティビティ。
 また、旬の食材をたくさん使ったグルメも人気です。

北海道の美しい自然を体いっぱい感じながら

あなただけの

あなたらしい時間をお過ごしください。



□経験者(100歳以上)対応のライディング
 クラブの営業も行っております。
 詳しくはお問い合わせください。

※インドア乗馬場完備(全天候型・25×65 m)

※ライディングクラブは予約制となっております。

◇ご予約・お問い合わせ◇

乗馬受付 0144-58-2812

新千歳空港から無料シャトルバス運行中

NORTHERN HORSE PARK



〒059-1361 北海道苫小牧市美沢 114-7
 TEL 0144-58-2116 FAX 0144-58-2377
www.northern-horsepark.co.jp/

ノーザンファーム 騎乗スタッフ募集



馬術で鍛えた技術を
 競走馬に活かしませんか?

未経験者研修制度あり

◇お問い合わせ(平日9:00~16:00)

0145-22-3453

(担当者/杉田)

Northern Farm

〒059-1432 北海道勇払郡安平町早来源武 275
 TEL 0145-22-3453 FAX 0145-22-3222

◆ 編集後記 ◆

初めに、本年度版の発行が当初の4月予定より大きく遅れてしまったことを深くお詫び申し上げます。特に、期日までに原稿を提出して下さったOBを始めとする方々には、本当に申し訳ない思いで一杯です。

2009年度は、北彗号と出戸兄による18年ぶりの北日学総合優勝、名馬エルグレイ号の逝去、75周年史発行など、記録にも記憶にも残る年となりました。特にエルグレイ号の逝去は、まだ入部間もなく、馬という存在に完全に親しみきれていない私たちに、「生命を扱う」ことの責任の重さを痛感させる出来事でした。今回組ませて頂いたエルグレイ号追悼特集を読まれたひとりひとりの心の中に、エルグレイ号という存在がいつまでも生き続けることを願ってやみません。

最後に、広告掲載させて頂いた企業の皆様、寄稿して下さいました方々始め、日頃部を支えてくださっているOBの皆様、編集を手伝ってくれた現役部員に心から感謝申し上げます。

久野 紗絵香
波田地 利子
柳田 睦仁

北海道大学馬術部部報 第55号 平成22年 8月発行

編集者 北海道大学馬術部部報担当 久野 紗絵香

波田 地利子

柳田 睦仁

印刷所 ひまわり印刷株式会社

〒053-0815 北海道苫小牧市永福町2丁目1-4

発行所 北海道大学馬術部

〒001-0023

札幌市北区北23条西12丁目

TEL・FAX

011-737-1626

銀行口座 北洋銀行 391-1-0443731-1

表紙元写真撮影者 本城敬文

